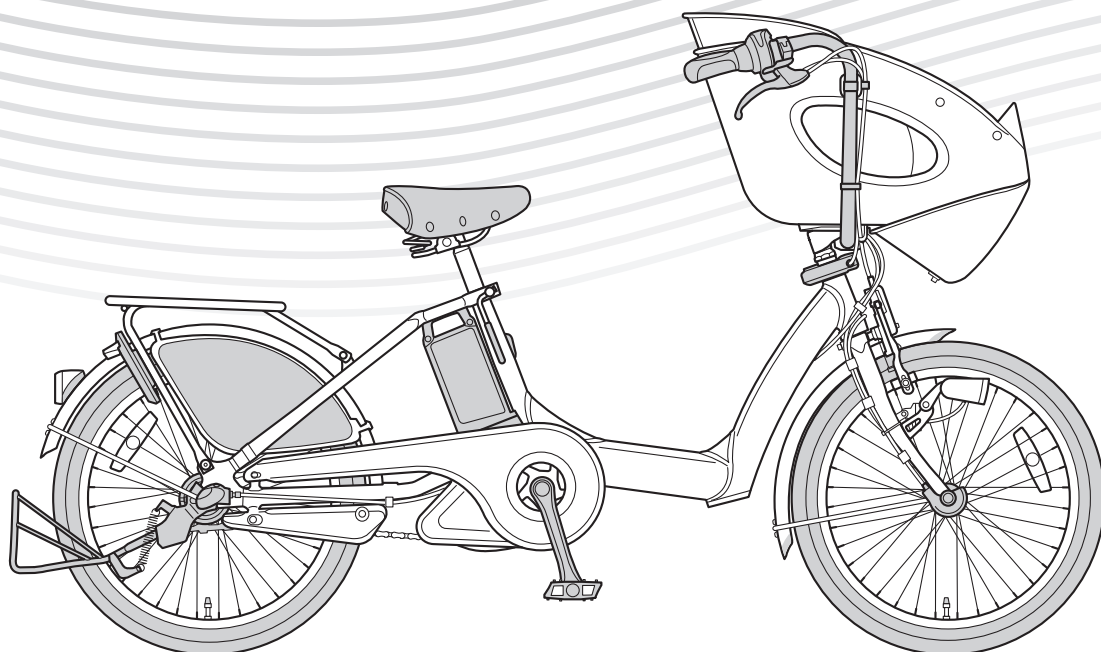


bikke POLAR e(BP0D38)

取扱説明書

お願い

- 納車時に販売店から、電動アシスト自転車の使用方法について十分に説明を受けてください。
- 本書／点検・整備の記録と保証書は、紛失しないよう大切に保管し、ご活用ください。
- 盗難補償には加入手続きが必要です。盗難補償書に記載の期日（購入後20日）を目途にホームページからオンライン登録するか、またはロビンフッド手帳（保証書・盗難補償書）に記載のQRコードから携帯電話でオンライン登録する、またはロビンフッド手帳のブリヂストンサイクル盗難補償カード（ハガキ）に必要事項を記入の上、投函してください。
- 電動アシスト自転車を他の人にお譲りになる場合は、取扱説明書も一緒にお渡しください。
- 保証書は「販売店名、お買い上げ日」などの記入を確かめて販売店からお受け取りください。
記入がもれている場合は、販売店にご請求ください。



もくじ

はじめに

前書き	4
-----	---

安全のために

電動アシスト自転車に安全に 使用するために	5
自転車を安全に乗るために	7
バッテリーや充電器を使うとき	15
自転車の交通ルールについて	19

電動アシスト自転車について

電動アシスト自転車のしくみ	21
各部の名称	22

バッテリーについて

バッテリーの特徴	23
バッテリーの交換について	24

充電しましょう

充電に適した環境	25
バッテリーの脱着	26
充電のしかた	28
充電時間の目安	29

乗る前に

乗車前点検	30
バッテリー残量の確認	34
走行モードについて	36
充電あたりの走行できる距離	38

乗りましょう

発進のしかた	40
チャイルドシートの使い方	43
テモトデロックの操作方法	51
安全な使いかた	54
変速のしかた	61
メインスイッチの表示機能について	62
前照灯について	63
自動点滅ソーラーテールライトの取り扱い	65
荷物の積載	67
チャイルドシートについて	69
アシストが作動しない環境	72
駐輪のしかた	73

お手入れと保管

お手入れのしかた	75
保管のしかた	78






ごぞんじですか？

もしもこんなときは	80
定期点検／ 普通自転車点検整備済みTSマーク	88
保証制度／基準適合標章(TSマーク)	89
BAAマーク	90
防犯登録／盗難補償／保険について	92
スペアキーについて	93
点検・整備の記録	94
製品仕様	95

前書き

このたびは、電動アシスト自転車をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。
電動アシスト自転車は、自転車に乗れる方でしたら手軽にお乗りいただくことが可能です。
ただし、普通の自転車と異なる部分もありますので、乗車される前には必ず、本取扱説明書をお読みいただき、安全・快適にご使用ください。
お子様がご使用になる時は、必ず本書を保護者の方がお読みになっていただき、正しい乗り方をご指導くださいますようお願いいたします。

本取扱説明書では、正規の取り扱い・点検・整備に関して必要な項目を次のような記号で区分し表示しております。

	安全にかかわる注意情報を意味しています。
 危険	取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至るおそれ大きい場合を示しています。
 警告	取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示しています。
 注意	取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示しています。
要点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示しています。
	安全上してはいけない「禁止」内容を意味しています。

電動アシスト自転車を安全に使用するために

警告

けんけん乗りは行わない

走りだす前に必ずサドルに座ってから、発進してください。けんけん乗りをすると、電動アシストが作動することで自転車だけが前に進み、体を取り残される場合があり、転倒や接触事故につながるおそれがあります。



凹凸の差が大きい場所は走らない (歩道の段差や、溝など)



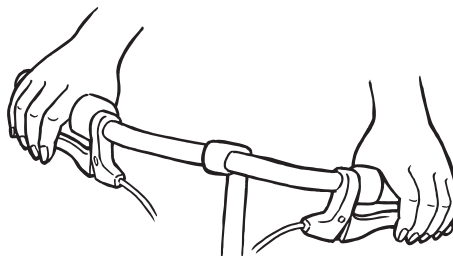
- 車体や車輪、電動アシストシステムが損傷することで転倒し、けがをするおそれがあります。
- タイヤが溝にはまり転倒するおそれがあります。
- 凹凸の差が大きいところは自転車から降り、押して歩いてください。

電動アシスト自転車の発進に慣れるまでは、車や人の多い道で乗らない

- 電動アシスト自転車は普通の自転車より軽く発進できます。普通自転車と同じようにペダルを踏むと、電動アシストが作動して普通自転車以上に加速するので、驚いて転倒や衝突のおそれがあります。
- まずは安全な場所で練習して電動アシストの感覚に慣れましょう。
- 練習の時は「オートマチックモード」で発進しましょう。
- 危険な走行（高速走行、急坂登坂）はせず、年齢や体力に合った走り方をしてください。



止まっている時は、前と後の両方のブレーキをかけ、ペダルに足を乗せない



- ペダルに足を乗せると、電動アシストが作動する場合があります。
- 止まっている時は、前と後の両方のブレーキをかけ、ペダルには足を乗せないようにしてください。

電動アシスト自転車を安全に使用するために

⚠ 警告

夜走る前に、必ずバッテリー残量をチェックする

- バッテリーによって前照灯（ライト）は点灯しています。バッテリーが減少し、アシストができなくなった場合、しばらく経つと消灯します。その状態で乗車すると衝突や転倒のおそれがあります。
- 無灯火走行は法令により禁止されていますので夜の走行時に前照灯が消えた場合は、自転車を押して歩いてください。

異常を感じた場合は乗らない



- 事故や転倒によってけがをするおそれがあります。
- 異常表示や異常点滅など、異常な状態を発見した場合はすぐに購入したお店に相談してください。

電動アシストシステムの分解や電動アシストシステムへの注油はしない



- 故障や誤動作が発生し、事故や転倒によりけがをするおそれがあります。
- 電動アシストシステム、バッテリーなどは精密な部品により構成されているため、分解、注油は行わないでください。
- 故障したと思われる時は、「もしもこんなときは」(P80～P87)を参照の上、購入したお店にご相談ください。

自転車を改造しない

- 部品の破損や、故障により、けがのおそれがあります。
- 修理及び、パーツの取り付けは購入したお店にご相談ください。

純正部品以外は使用しない（アクセサリー、交換部品）

- 部品の破損や故障により、けがのおそれがあります。
- タイヤなどの消耗品、アクセサリーなどの部品は、購入したお店にご相談の上、必ず純正部品を取り付けてください。それ以外の市販品を使用した場合は思わぬ事故、故障の原因になります。また保証の適用が受けられない場合もありますのでご注意ください。

自転車を安全に乗るために

⚠ 警告

二人乗りはしない



自転車の二人乗りは道路交通法で禁止されています。転倒や落車などによるけがのおそれがあります。

手やハンドルに荷物をかけたり、ペットをつないだりしない



- 荷物やひもが車輪に巻き込まれたり、バランスを崩して転倒し、けがのおそれがあります。
- 荷物は、バスケットやリヤキャリアに積んでください。

飲酒時やかぜ薬など服用時、および体調が優れないときは乗らない



運動機能が低下し、衝突などによるけがのおそれがあります。

傘をさしながらの運転はしない



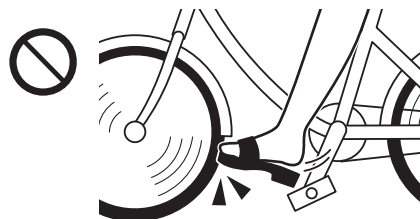
- バランスがとりにくくなり、転倒によるけがのおそれがあります。
- 合図する時以外は両手でしっかりハンドルを握って運転してください。

乱暴な乗りかたはしない (アクロバットのな乗りかたや急発進、急旋回など)



転倒や落車などによるけがのおそれがあります。

滑りやすい靴(サンダルなど)や、かかとの高い靴などを履いて乗らない



足がペダルから外れて、靴(サンダルなど)が前輪に接触するとハンドル操作ができなくなったり、前輪に靴(サンダルなど)が巻き込まれて転倒するおそれがあります。

自転車を安全に乗るために

⚠ 警告

車輪やベルトに巻き込まれやすい
服装は避ける
(長いスカートや長いマフラーなど)



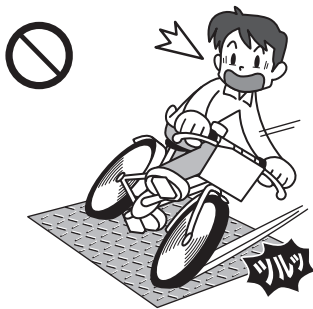
- 転倒によるけがのおそれがあります。
- すそが広がっているズボンやバンドやゴムで留めるようにしてください。

積載条件から外れる荷物を積まない
(P67～P68)



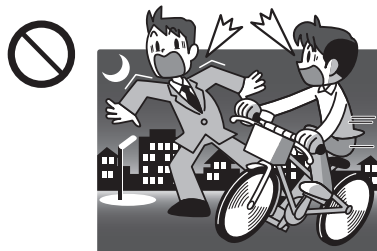
バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

滑りやすいところでは乗らない
(積雪や凍結した道、濡れている鉄板やマンホール、ぬかるみ、歩道の点字ブロックなど)



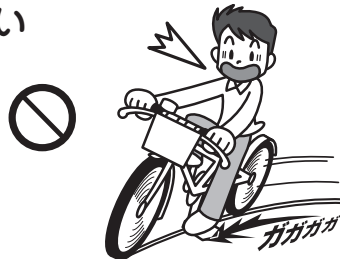
- スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。
- 自転車から降りて、押して歩いてください。

視界の悪いときは、無灯火で乗らない
(夜間やトンネル内や霧など)



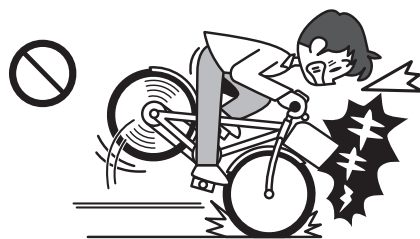
- 見通しが悪くなり、また他の通行者から見えづらくなり、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。
- 夜間道路を走るとき、及びトンネル内を走るときには必ず前照灯を点灯してください。もし前照灯がつかないときは、押して歩いてください。

カーブで曲がる側のペダルを下げない



ペダルが地面と接触し、転倒によるけがのおそれがあります。

片側だけのブレーキ操作はしない



- スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。
- ブレーキをかける時は、必ず前後ブレーキを併用し、後ブレーキを先に掛けてから前ブレーキをかけてください。

自転車を安全に乗るために

⚠ 警告

急な登り坂では、自転車から降り押し歩く

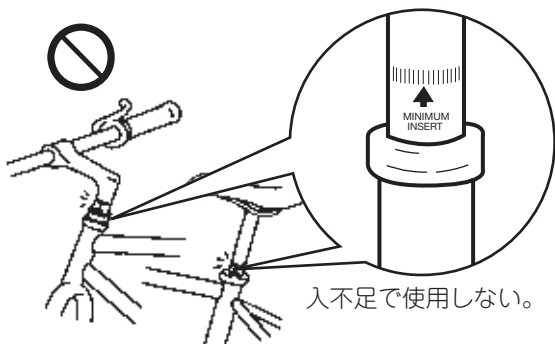
登り坂では前輪が浮いたり、ハンドルがとられやすくなり、転倒し事故・けがをするおそれがあります。

踏み台代わりなど走行以外に使わない



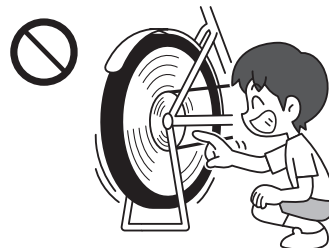
転倒によるけがのおそれがあります。

サドルやハンドルは引き上げ限界線が見える状態で乗らない



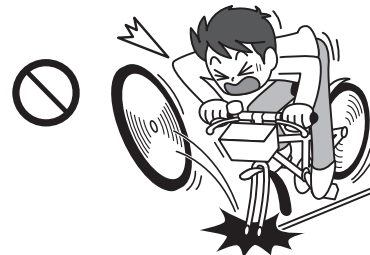
サドルやハンドルの折れや抜けにより事故・けがのおそれがあります。

車輪・ベルトなどの回転部に手や足、ものなどを近づけない また、子供を近づけさせない



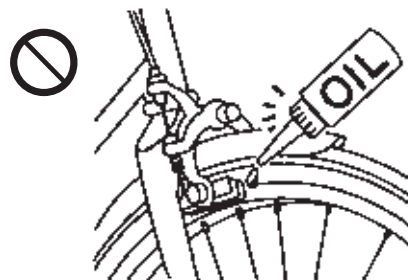
車輪やチェーンに巻き込まれ、けがをするおそれがあります。

車輪の脱着やハンドル、サドルの調整後、締め付けを確認せずに乗らない



- 車輪やサドルが外れて転倒によるけがのおそれがあります。
- 必ず乗る前に点検してください。

ブレーキの制動面やタイヤ、リムに注油しない



ブレーキが効かなくなり、衝突によるけがのおそれがあります。

自転車を安全に乗るために

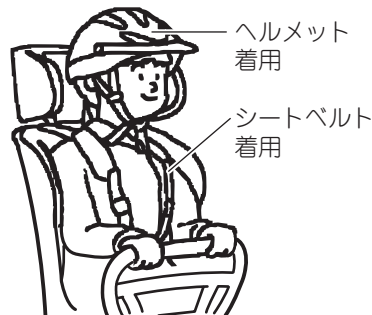
⚠ 警告

幼児はチャイルドシート（幼児用座席）を使用せずに乗せない



- 安定が悪くなり転倒によるけがのおそれがあります。
（一部市販品で取り付けられない場合がありますので、ご購入前に必ず販売店にご相談ください。）
- 16才未満の方は、幼児を乗せて使用することは法令で禁止されています。
- ご使用に際しては、確実にチャイルドシートが取り付けられているか（特に取り付け金具やボルトなど）を必ず確認してください。
- チャイルドシートを使用する場合は、両立スタンドを使用してください。
- 使用中は、幼児の足や手が可動部にはさまれないよう注意してください。
- チャイルドシートを使用する場合は、転倒による事故のおそれがありますので、幼児にシートベルトを着用させてください。
- リヤチャイルドシート（後幼児用座席）を使用する場合は、リヤキャリアを必ずご使用ください。あわせて、ドレスガードの装着をおすすめします。
- 幼児を乗せたまま駐輪しないでください。

幼児をチャイルドシート（幼児用座席）に乗せるときは必ず、幼児にシートベルトと自転車用ヘルメットを着用させなければなりません



- これらを着用していないと、自転車が転倒したとき、幼児が頭部を強打して大きな危害につながるおそれがあります。
- ヘルメットは、JIS T 8134（自転車用ヘルメット）と同等以上の性能を持つ、幼児用ヘルメットを着用させてください。

幼児をチャイルドシート（幼児用座席）に乗せたまま放置しない



安定が悪くなり転倒によるけがのおそれがあります。

自転車を安全に乗るために

⚠ 警告

走りながら携帯電話をかけたたり、メール操作などをしながら走行することは道路交通法で禁止されています



片手運転と前方不注意により、衝突・転倒のおそれがあります。

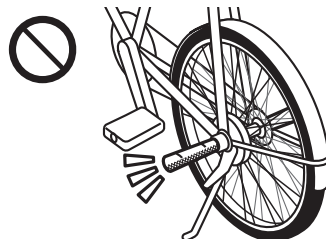
整備不充分のブレーキのままで走行しない(P31、P88)

- 赤さびになったケーブル、ほつれたケーブル、大きく摩耗したブレーキシューなどは制動力を低下させ、衝突・転倒のおそれがあります。速やかに販売店で、点検・交換をしてください。
- 乗る前には安全な広い場所で、前後のブレーキが正しく作動するか必ず確認してください。
- ブレーキレバーの握りしろについては「乗車前点検」の項目を参照してください。
- 雨天のときは、晴天のときより制動距離が長くなります。スピードを控えて、早めの滑らかなブレーキ操作をしてください。
- 後輪のローラーブレーキには専用グリスの補給が必要です。1年毎、またはブレーキをかけたときに音鳴りの発生や制動力に異常を感じたら、販売店でグリスを補給してください。

自転車が完全に止まってから降りる

自転車が完全に止まる前に飛び降りるようにして降りると、バランスを崩して転倒やけがのおそれがあります。

ハブステップを使用しないこと

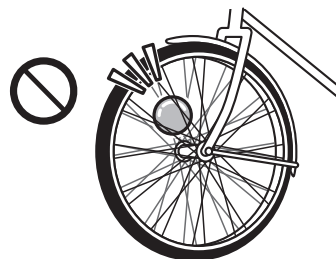


後ハブ軸にハブステップを取り付け、2人乗りで使用すると、ハブステップが破損して転倒したり、事故を起こす危険があります。

歩行者に危害を及ぼすおそれのある突起物を装着しないこと



スポークの間にボールなどを入れて走らないこと



車輪とフレーム、前ホークなどのすき間にはさまって転倒するおそれがあります。

傘やステッキなどを車体に差し込んだり、ハンドルにバッグや荷物をぶら下げて走らないこと

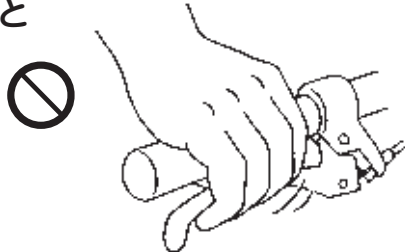


車輪に巻き込んだり、他の人や物にぶつけて、転倒や事故・けがのおそれがあります。

自転車を安全に乗るために

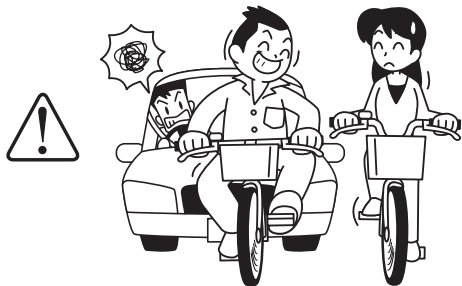
警告

ブレーキレバーの遊びが大きくないこと



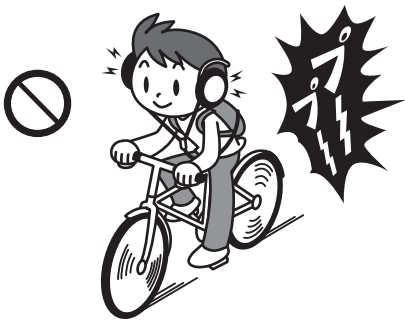
ブレーキレバーの遊びが大きいものは、ブレーキが効かなくなることがあり、危険ですので、すぐに販売店で点検を受けてください。

2人以上で通行するとき、横に並んで通行しない



自転車の並進は道路交通法で禁止されています。他の交通の妨げになったり、接触して、事故を起こす危険があります。1列で通行しましょう。

イヤホン・ヘッドホンを使用しながら乗車することは道路交通法で禁止されています



周囲の音が聞こえず、事故を起こすおそれがあります。



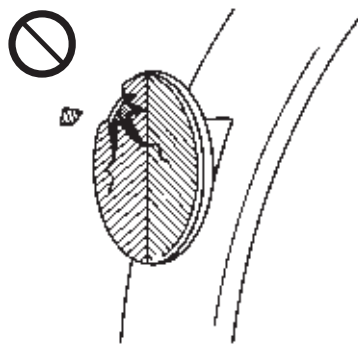
リムのブレーキ面に磨耗による変形、ふくれ、キズ、ひび、きれつ、振れ、汚れがあるまま使用しないこと

走行中にリムが破損し、転倒して事故・けがをするおそれがあります。

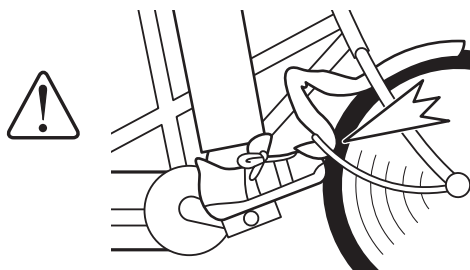


未組み立て及び未調整の自転車を使用しないこと

リフレクタが破損したり、汚れたまま使用しないこと



走行中、くつ先が前輪や前ドロヨケに接触しないようにする
(つま先でペダルを踏む)



前輪の回転により、足やドロヨケが巻き込まれて、事故を起こす危険があります。

自転車を安全に乗るために

警告

⚠ 変形したり破損した部品は
すぐに交換すること

⚠ 夜間使用する時は、前照灯
の点灯及び尾灯(テールラン
プ)の点滅を確認すること

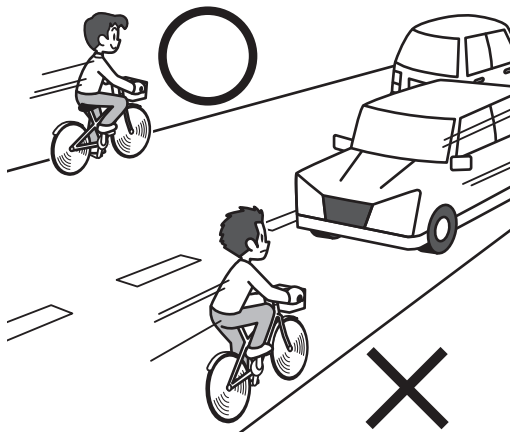
幼児、児童が自転車に乗車する時
は、必ず自転車用ヘルメットを着
用させてください

また、幼児・児童以外の者が自転車に乗車
する時も、安全のためヘルメットの着用を
おすすめします。



⚠ 車道を通るときは、左側に
沿って通行します

車道の右側通行は道路交通法で禁
止されています

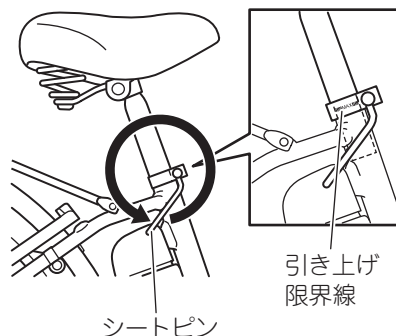


サドルの高さ調整

- シートピンのレバーを矢印の方向に回し、サドルの高さを調節します。このとき、引き上げ限界線が見えない範囲で上下に調整します。
- 調整後はシートピンのレバーを確実に締めつけてください。
- シートピン締め付け後、サドルが確実に固定されていることを確認してください。

サドルの高さ調整は運転中に行わないでください。

- 最も高くした場合でも、引き上げ限界線がフレームから、はみださないようにしてください。シートポストが破損したり、脱落したりするおそれがあります。



発進時はペダルを強く踏み込みすぎない

- 思わぬ急発進により転倒や衝突事故によるけがのおそれがあります。
- 一般の自転車のように強く踏み込まなくても、楽に発進することができます。



自転車を安全に乗るために

⚠ 注意

乗る前に必ず乗車前点検をする

- 乗る前には必ず点検を行ってください。(P30～P33)
- 不明な点がありましたら販売店にご相談ください。

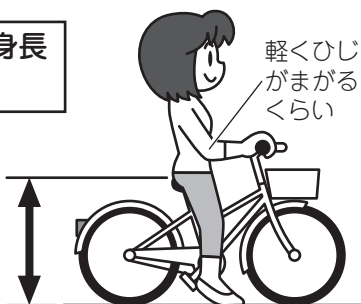
正しい姿勢で走行できるよう調整する

お買い求めの販売店でサドルやハンドルの位置などを自分に合った高さに調整してもらいましょう。

通常の場合

乗車可能最低身長
136cm

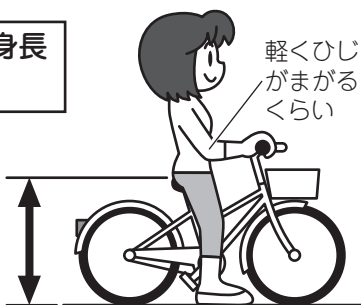
両足のつまさきが地面につくくらいのサドルの高さ



幼児2人同乗の場合

乗車可能最低身長
145cm

両足が地面にしっかりつくサドルの高さ



日常点検や定期点検を行ってください



故障したままの整備不良車の運転は禁止されています。

雨天時の坂道走行では、タイヤがスリップしたりブレーキのききが悪くなり、転倒や衝突事故を起こす危険性が高まります



前後ブレーキを併用し速度を落として走行してください。特に雨、風、雪がひどいときや視界が悪いときは、自転車から降りて押して歩いてください。

雨などでブレーキが濡れた場合は、乾燥させた後ご利用ください

雨が上がってもブレーキが濡れているとブレーキのききが悪くなります。特に、大雨に当たった場合やブレーキが水に浸かった場合は、必ずブレーキのききを確認し、異常があれば使用を中止してください。

バッテリーや充電器を使うとき

⚠ 危険

バッテリーの接点を短絡（ショート）させない



発熱、発火、感電、破損、故障の原因となります。

バッテリーを火に入れたり、過熱しない

発熱、発火、破損、故障の原因となります。

バッテリーを分解したり、改造しない



発熱、発火、感電、破損、故障の原因となります。

専用充電器以外の充電器は使用しない

発熱、発火、破損、故障の原因となります。

本電動アシスト車のバッテリーを他の電気機器に使用しない

発熱、発火、破損、故障の原因となります。

バッテリーや充電器を使うとき

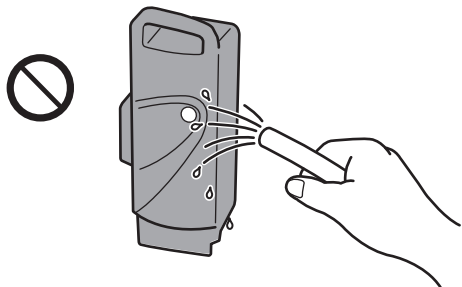
⚠ 警告

バッテリーが破損したときや、傷を発見したとき、または異臭がするときには使用しない



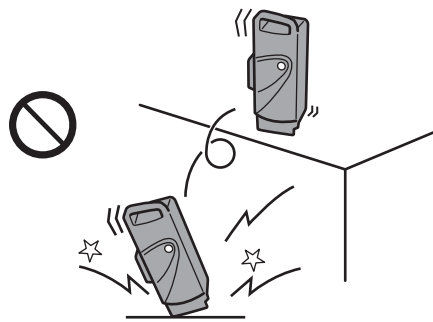
- バッテリーの液漏れによって、やけどするおそれがあります。
- 異常を感じたときは、すぐ購入したお店にご相談ください。

バッテリーに水をかけない、水没させない



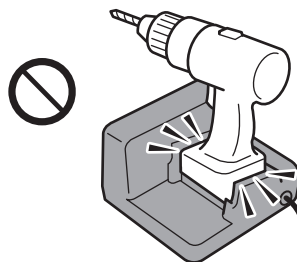
発熱、発火、故障の原因となります。

バッテリーは落とさない、衝撃を加えない



落下等により衝撃が加わると、発熱、発火、破損等の故障の原因となります。

充電器を他の電気機器の充電に使用しない

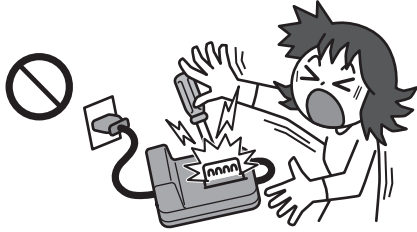


火災、破裂、発熱、発火、故障の原因になります。

バッテリーや充電器を使うとき

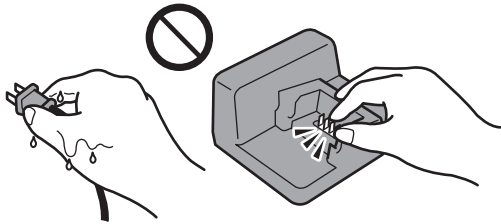
⚠ 警告

充電端子を短絡（ショート）させない



発熱、発火、感電、破損、故障のおそれがあります。

ぬれた手で電源プラグを触らない、充電端子に触れない



感電のおそれがあります。

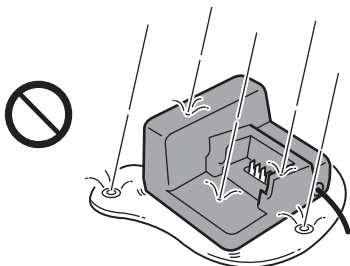
充電端子に電池（乾電池、ボタン電池等）を接触させない

破裂、発火、破損のおそれがあります。

充電器を分解したり、改造しない

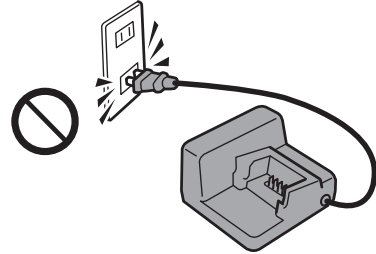
火災や感電の原因になります。

充電器に水をかけたり、雨ざらしで使わない



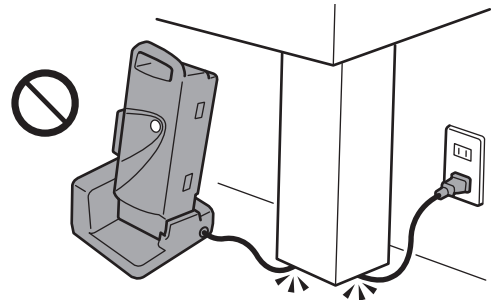
感電や火災、故障の原因になります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全の場合、感電や発熱による火災、故障や破損の原因になります。

電源コードの上に物を置いたり、コードをはさんで固定しない



火災や感電の原因になります。

コードに傷がついているときは使わない

火災や感電、故障のおそれがあります。

充電器を家庭用コンセント（AC100V）につないだままにしない

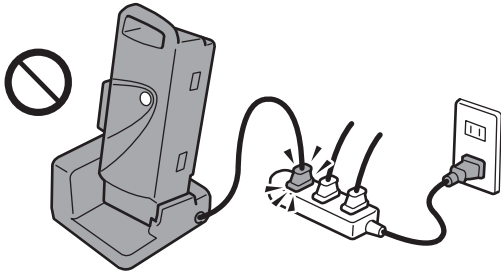
コンセント部分にほこりがたまり、火災になるおそれがあります。ほこりは定期的に取り除くようにしてください。

充電器を使用しない場合は、安全のためコンセントから抜いておいてください。

バッテリーや充電器を使うとき

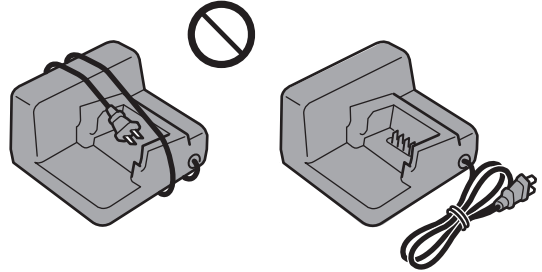
⚠ 警告

コンセントや配線器具の定格を超えた状態で充電しない



たこ足配線で定格を超えると、発熱・発火によって火災の原因になります。

電源コードを束ねた状態で使用したり、充電器本体に巻きつけない



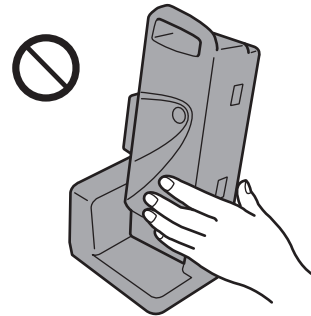
電源コードが損傷し、火災や感電などの原因になるおそれがあります。

幼児やペットが触れるところにおかない



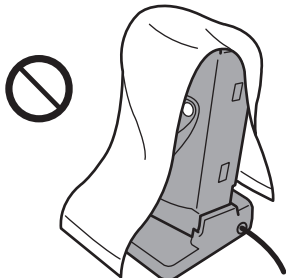
感電や火災、故障、幼児の怪我や事故の原因になります。

充電中は長時間同じ場所に触れない



充電中は40℃～60℃になる場合があるため、低温やけどをするおそれがあります。

充電中にはカバーをしたり、上に何か置かない



発熱し、火災や故障の原因になるおそれがあります。

ガソリンやガス等の引火物の近くでは充電しない

火災や爆発などの原因となることがあります。

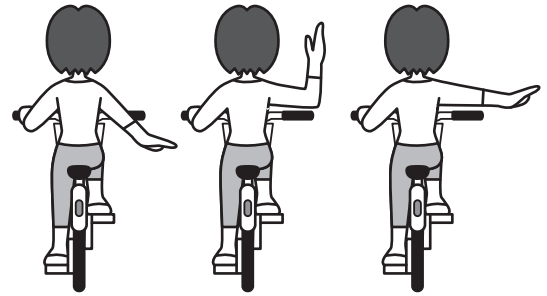
自転車の交通ルールについて

交通ルールを守りましょう

1

自転車の正しい乗りかた

- 発進するときは、見通しのきく道路の左側で、後方と前方の安全を確かめる。
- 右折、左折するときは、早めに合図する。
- 停止するときは、安全を確かめて停止の合図を行い、道路の左側に沿って停止し、左側に降る。



停止

左折

右折

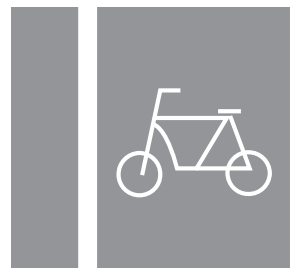
2

自転車の通るところ

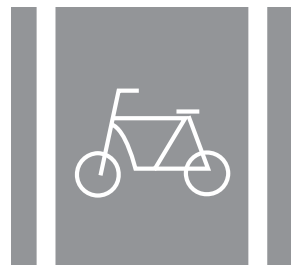
- 車道を通るときは、車道の左側に沿って通行する。
- 自転車は路側帯を通ることができますが、歩行者の通行に大きな妨げになるところや、白二本線の標示のあるところは通れません。
- 自転車歩道通行可の標識のある歩道は、つぎの方法により通行することができます。
 - ・ 歩道の車道寄りの部分を徐行する。
 - ・ 歩行者の通行を妨げるおそれのある場合は、一時停止する。
- 自転車道のあるところでは、自転車道を通る。
- 道路を横断するとき、近くに自転車横断帯があれば、自転車横断帯を通る。
自転車横断帯がなく近くに横断歩道があるときは、自転車を押して横断歩道をわたる。



普通自転車の歩道通行部分



自転車横断帯



3

自転車が通行できる歩道、路側帯を通るときの注意

- 歩道は歩行者優先であり、車道寄りを徐行すること。
- 歩行者の通行を妨げない。
- こども、身体の不自由な人が歩いているときは、一時停止か、充分速度を落とす。
- 自転車は車道通行が原則です。道路交通法上、自転車は軽車両と位置づけられています。したがって、歩道と車道の区別のあるところでは車道通行が原則です。但し、次の場合には歩道を通行することができます。
 - ・ 道路標識等で指定された場合
 - ・ 運転者が児童、幼児等の場合
 - ・ 車道または交通の状況からみてやむを得ない場合

自転車の交通ルールについて

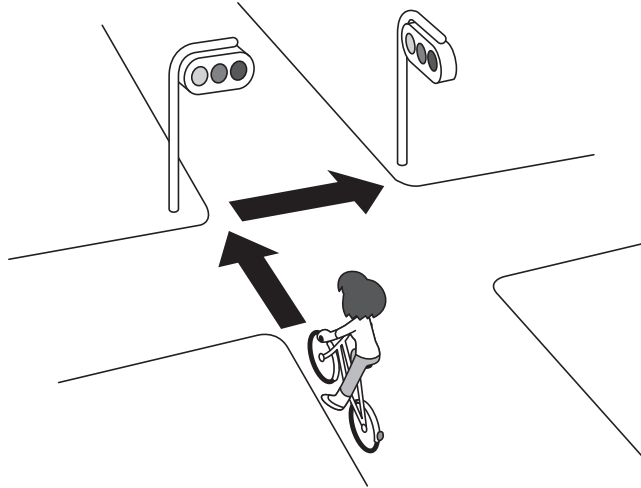
交通ルールを守りましょう(つづき)

4

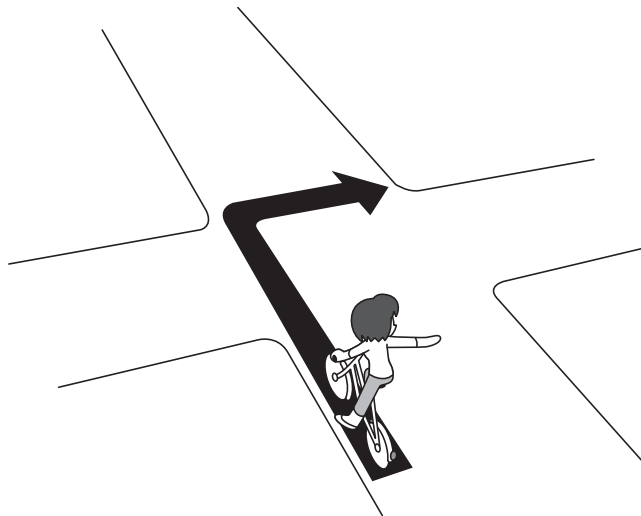
交差点の通りかた

- 右折の方法

信号などや交通整理が行われているところ



信号がなく交通整理が行われていないところ



- 自転車横断帯があるときは、その自転車横断帯を通る。
- 自転車進入禁止標識のある交差点では、左側の歩道に乗り入れて自転車横断帯を通る。

電動アシスト自転車のしくみ

● ペダル踏力とアシスト力の比率

要 点

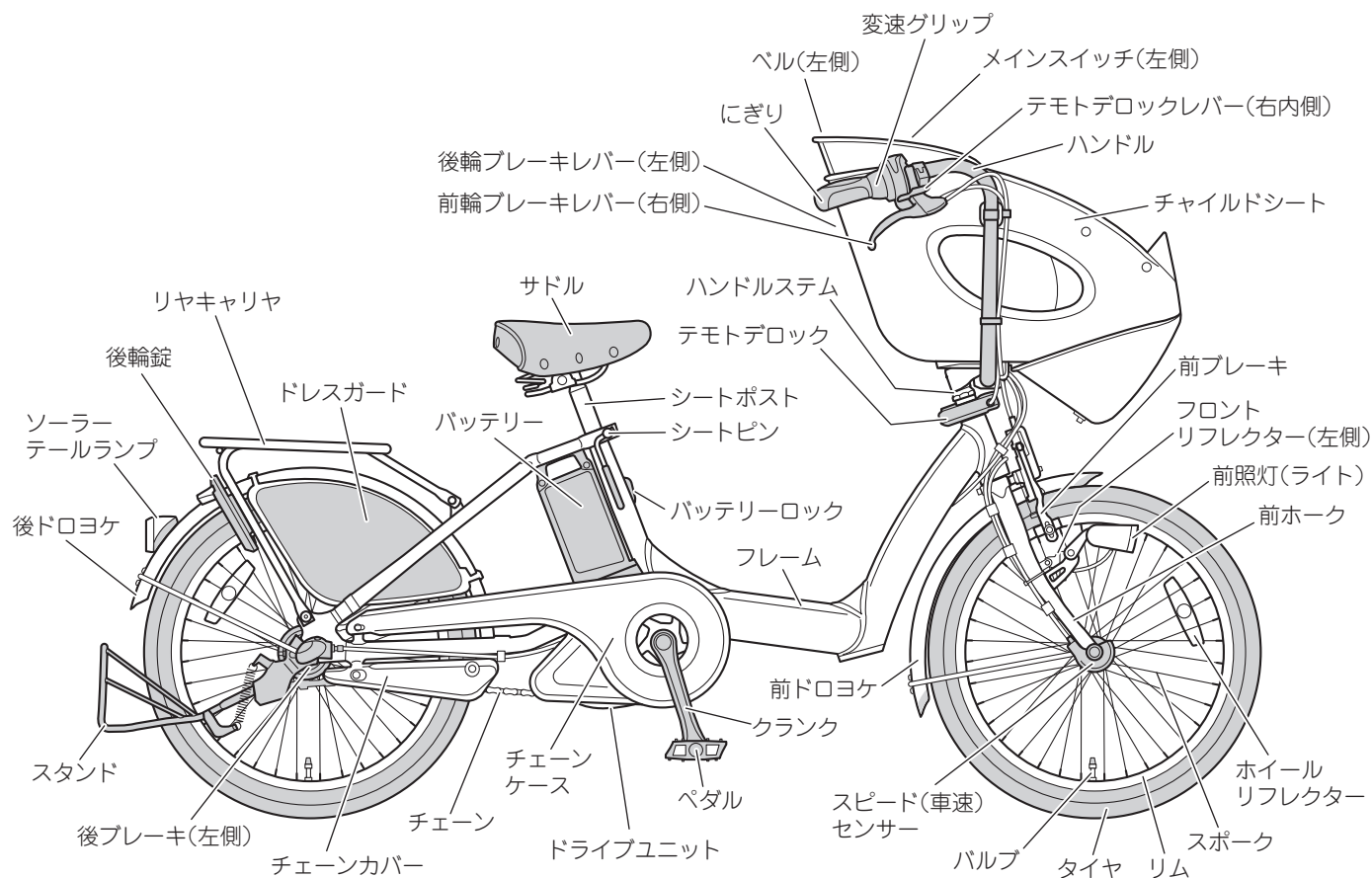
ここでは、アシスト力の法令基準について説明しています。電動アシスト自転車はこの基準の範囲内で、ペダルを踏む力や走行速度、変速位置などに応じてアシストをします。

〈法令基準〉

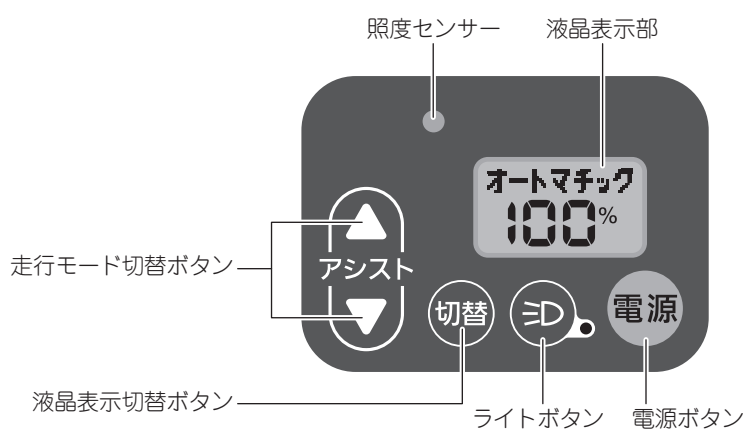
- 時速10Kmまでは、こぐ力とアシスト力の比率が「最大1:2*」となります。
- 時速10Kmを超えると、しだいにアシスト力を弱めていきます。
- 時速24Kmでアシスト力はゼロになります。

※法令基準はあくまで最大値を定めるものです。商品によってこの基準の範囲内でアシストレベルが異なります。

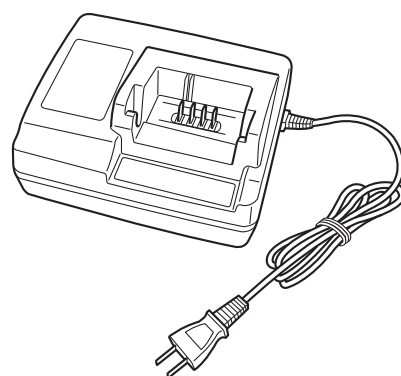
各部の名称



メインスイッチ



専用充電器



キーを失くしたときは

裏表紙の[キー番号記入欄]にキー番号を控えておいてください。

万一、キーを紛失した場合、番号を控えておくことにより、キーの作製が可能です。

キーの作製については、ご購入店にご相談ください。(有料)

バッテリーの特徴

電動アシスト自転車のバッテリー

電動アシスト自転車のバッテリーはリチウムイオンバッテリーです。

電動アシスト自転車のバッテリー：
リチウムイオンバッテリー D301

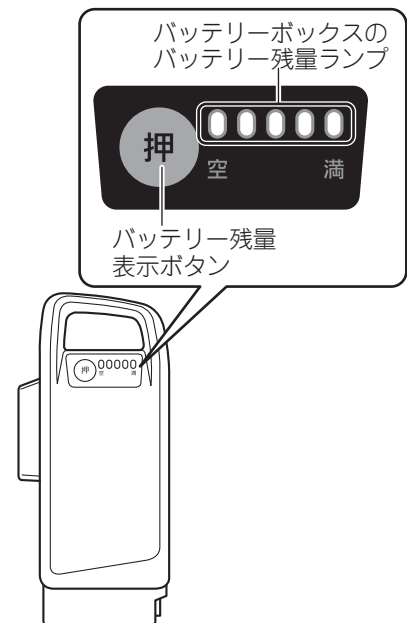
このバッテリーは軽くて電池容量も優れているバッテリーですが、次のような性質があります。

- 極端に温度の高い環境／低い環境では性能低下がある。
- 放置中でも放電がわずかにある。
- 数回使用することで新品時より性能が安定する。

また、このバッテリーは、コンピューターが内蔵されていて、バッテリー残量ランプでバッテリー残量の目安や異常の発生などの情報を知ることができます。

バッテリー残量表示ボタンを押すと、バッテリー残量ランプが約4秒間点灯いたします。

バッテリー残量については「バッテリー残量の確認」(P34～P35)をご確認ください。



要 点

バッテリーを取り外した状態で接続端子が雨水にぬれていても、ご使用に問題ございません。

バッテリーの特性

- 電動アシスト自転車のバッテリーは、温度が上がると、システム保護制御が働きアシスト力が低下することがあります。(故障ではありません。)その後、バッテリーの温度が下がると機能が回復いたします。なお、変速段のシフト位置をそれまで使用していたシフト位置より落としてご利用いただくことで、この現象を回避することができます。(たとえば〈2〉→〈1〉速にする)
- バッテリーの温度が低下すると、一回の充電あたりで走行できる距離が短くなったり、アシスト力が弱くなる場合がありますが、これはリチウムイオンバッテリーの特性で、故障ではありません。その後、温度が上がると回復します。バッテリーを15～25℃の室内で保管してからご使用いただくことで、この症状を軽くすることができます。
- このバッテリーは置いておくだけで、わずかながら放電します。ご使用前に充電することで回復します。
- 購入直後(新品時)は一回の充電での走行距離が短い場合がありますが、数回の使用と充電により、本来の性能を発揮いたします。

バッテリーの交換について

バッテリーの寿命および交換

電動アシスト自転車のバッテリーは、充電と放電が繰り返し(700～900サイクル^{※1})行われることで、新品のときに比較して約50%まで低下します。また、長い間保管している場合にも、ごくわずかずつですがバッテリー容量は低下します。バッテリー容量が低下すると一充電あたりの走行距離が短くなります。また、アシスト力が弱く感じる場合もあり、このような状態が、充電してももとに戻らないようであれば、そのバッテリーの交換時期です。できるだけ早いうちにバッテリーの交換をお願いします。なお、この場合のバッテリー交換は有料ですのでお店で購入をお願いいたします。

※1 充放電「1サイクル」とは：満充電のバッテリーが残量0(ゼロ)になるまで使用された後、再度満充電にする周期のことをいいます。

バッテリーの交換に関するお願い

● バッテリーの様子がおかしいと感じたら、まずは「もしもこんなときは」(P80～P87)をお読みください。それでも状態が改善しない場合は購入されたお店にご相談ください。

● 電動アシスト自転車のバッテリーの保証

電動アシスト自転車のバッテリーには、一定期間内の著しい劣化・故障に対して、保証しています。

詳細は保証書をご確認ください。

● バッテリーリサイクルのご協力のお願い

リチウムイオンバッテリーは、「資源の有効な利用の促進に関する法律(資源有効利用促進法)」で、次の2つが義務付けられています。

- 使用後の回収
- 再資源化

使用済みになったバッテリーは、購入されたお店でリサイクルの手続きをしてもらってください。地球の限られた資源を有効活用します。

使用済みバッテリー
(回収リサイクルへ)



リサイクルマーク

充電に適した環境

非常に暑い／寒い場所では充電が正しくできない場合がありますので、次のような充電に適した環境で充電を行ってください。

- 温度が15～25℃の屋内
- 雨水に当たらないところ
- 湿気の少ないところ
- 直接日光に当たらないところ
- 風通しがよいところ
- 平らで充電器が安定して設置できるところ
- 幼児やペットが触れないところ

要 点

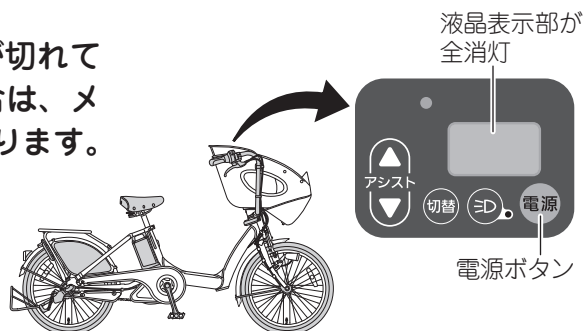
- 充電器との位置関係によっては、近くのテレビやラジオにノイズが発生する場合があります。
- 温度が高くなり充電待ち状態となったバッテリーが充電できる温度に下がるまで、室内の温度が高いほど時間がかかります。（周囲の温度により、充電開始までに1～2時間かかる場合があります）

バッテリーの脱着

バッテリーの取り外しかた

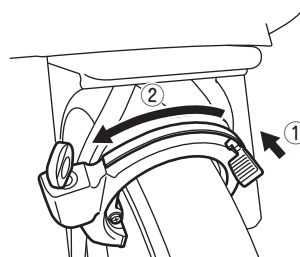
1

メインスイッチのランプ類が消灯して、電源が切れていることを確認します。電源が入っている場合は、メインスイッチの電源ボタンを長押しして電源を切ります。



2

後輪のサークル錠を施錠した後、キーを抜き取ります。



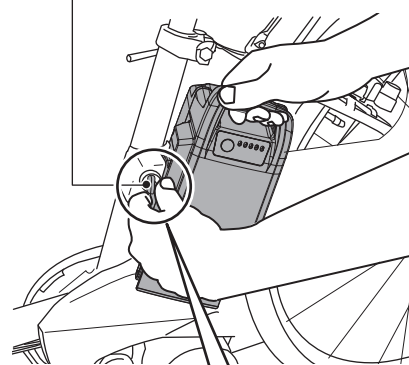
3

バッテリーロックにキーを挿入し、キーを反時計方向に60°回します。

注意

バッテリーに手を添えてください。

バッテリーロック



4

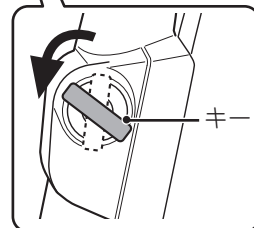
バッテリーロックが解除され、バッテリーが外せる状態になります。

5

バッテリーのグリップをしっかりと持ち、自転車の左側に倒すよう動かし上方へバッテリーを取り出します。

要点

バッテリーを取り外したまま、駐輪しているときに、接続端子が雨水にぬれてもご使用に問題ありません。

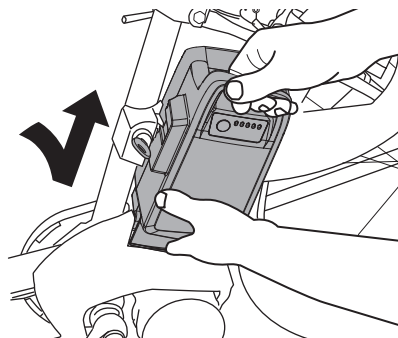


6

バッテリーを取り外した後、キーを時計回りに回してから、キーを抜き取ります。

注意

キーを忘れずに抜き取ってください。



7

バッテリーを充電します。(P28～P29)

バッテリーの脱着

バッテリーの取り付けかた

1

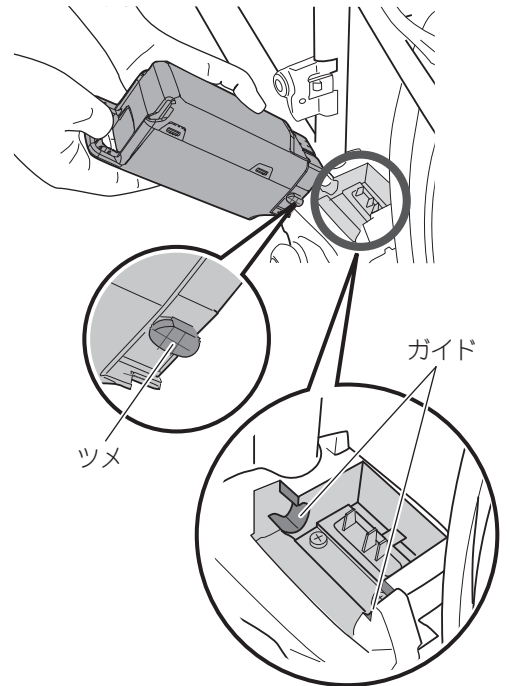
自転車側のガイドに、バッテリー下部のツメを合わせながら、ゆっくりとバッテリーを差し込みます。

⚠ 警告

バッテリーを装着する時に指などをはさまないように注意してください。

⚠ 注意

自転車側のバッテリー装着部にゴミが付いていない状態でバッテリーを装着してください。



2

バッテリーのグリップ側(上部)を自転車方向に押し込みます。

中央付近まで行くとカチッと音がしてロックされます。

要点

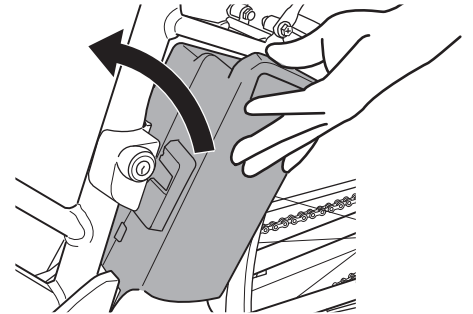
キーをロックに差し込んだ状態でバッテリーを取り付けられますが、バッテリーのグリップ側(上部)を中央まで入れた後、手でバッテリーを軽く押しつけながらキーを時計方向に回してロックした後に、キーを抜いてください。

⚠ 警告

バッテリーが確実に装着されていないと、バッテリーが落下するおそれがあります。

⚠ 注意

- バッテリーを取り付けた後は、確実にロックされていることを確認してください。
- 走行前にキーを忘れずに抜き取り、バッテリーロックに差し込んだまま走行しないでください。



充電のしかた

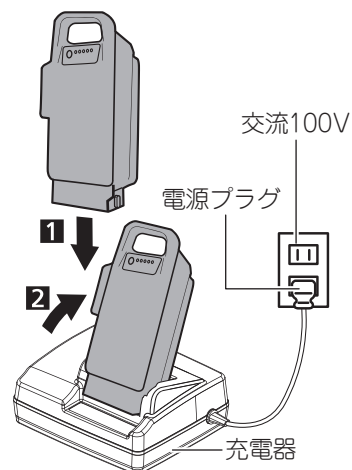
バッテリーの充電は、バッテリーを車両から取り外し、専用充電器を使用して充電してください。

充電器のつなぎかた

1 充電器の電源プラグをコンセント(100V)に差し込みます。

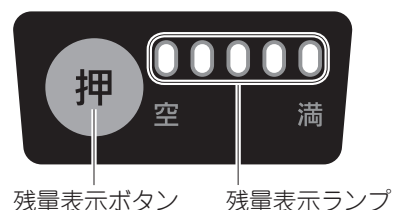
2 バッテリーを充電器に奥まで押し込みます。

充電器が電源に接続されていれば、バッテリーを充電器に差し込むだけで、自動的に充電されます。



3 バッテリーの充電状態をバッテリーのバッテリー残量表示ランプで確認します。

充電中はバッテリー残量に応じた数の残量表示ランプが点灯・点滅します。充電が完了すると、残量表示ランプは消灯します。



警告

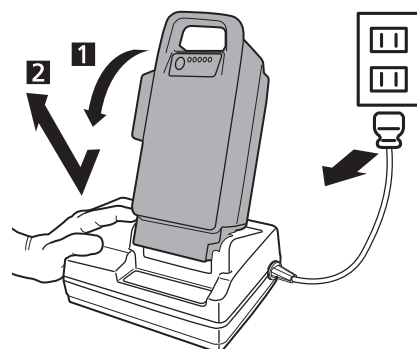
充電中の異音・異臭・煙がでるなど異常に気がいたら、ただちに充電器の電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーも充電器から取り外してください。

要点

走行直後などバッテリー内部の温度が上昇しているときは、充電できないことがあります。バッテリー内部の温度が規定温度まで下がれば、充電を開始します。(周囲の温度により、充電開始までに1~2時間かかる場合があります)

4 充電の完了を確認できたら、バッテリーを充電器から取り外します。

バッテリーの充電が完了すると、バッテリーのバッテリー残量ランプは消灯します。充電器の方も押さえながらバッテリーのグリップをもって手前に倒してから、斜め上側に引くようにして取り外します。



充電時間の目安

バッテリーの充電時間は、バッテリー内部の温度によって変化します。

装備バッテリー

リチウムイオンバッテリー D301

バッテリー残量ランプが1灯点滅の状態まで使用した場合、満充電になるまでの充電時間はおよそ次のとおりです。

充電時間

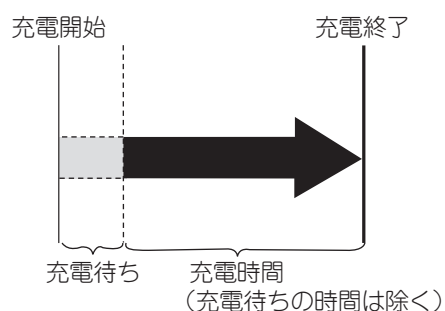
約4時間30分

⚠ 警告

バッテリー充電中に異常に気がついた時は、ただちに充電器の電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーも充電器から取り外してください。

要点

充電時間の目安には、充電待ち時間（バッテリー内部の温度が充電できる温度に下がるまでの時間）は含まれておりません。



乗車前点検

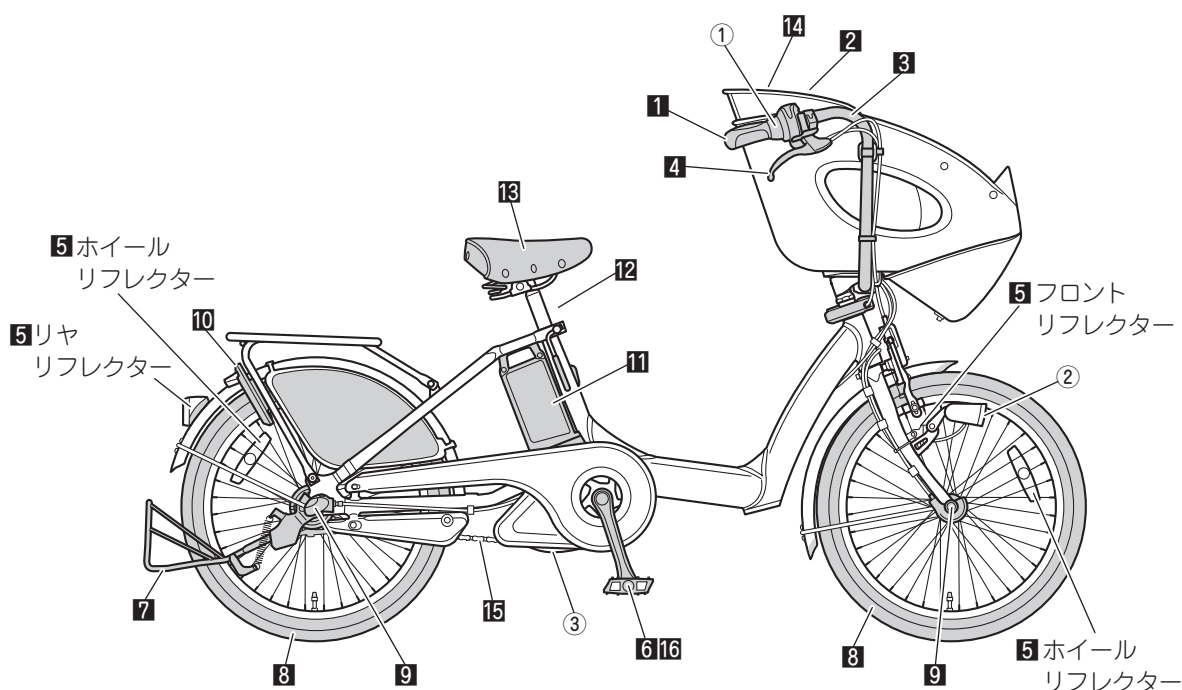
警告

- 乗車前点検を必ず実施してください。
- 点検で異常が認められた場合は、すみやかに販売店で点検してください。
- わからないことや難しいと感じた時は、販売店にご相談ください。

要点

- 走行前に確認を行う項目 ①～⑭
- 走行開始してすぐに確認する項目 ①～③

メインスイッチの電源を切った状態で点検してください。



① にぎり(グリップ)の固定状態

にぎり(グリップ)に力を入れてもハンドルに対しても回ったり、抜けないことを確認します。

② ベル(報知器)の作動具合

ベル(報知器)が正常に鳴るか、動きが悪くないかを確認します。

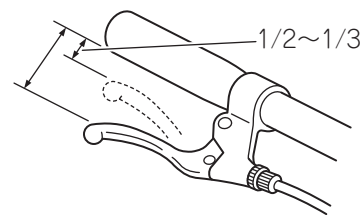
③ ハンドルの状態

ハンドルを上下・左右・前後方向に力を加えても、がたつかないか確認します。また、ハンドルが前輪に対してほぼ直角に取り付けられているか確認します。
ハンドルの高さは、サドルにまたがった状態でハンドルバーを握ったとき、軽くひじが曲がるくらいが適正な位置です。

4 ブレーキレバーの握り調整

左右のブレーキレバーを握った時に、レバーとハンドルグリップとの間が約1/2～1/3になった状態でブレーキがきくか確認します。

ブレーキレバーの握りしろが大きすぎる場合、または小さすぎる場合は、購入したお店で点検・調整を受けてください。



5 フロントリフレクター、リヤリフレクター、ホイールリフレクターのよごれ・破損 ...

リフレクターに汚れや破損がないか点検します。よごれている場合は拭き取ってください。また、破損している場合は交換します。

6 ペダル他、可動部のがたつき

ペダルなど可動部に、異常ながたつきがないか、滑らかに回転するか確認します。がたついている場合はボルトなどの増し締めをします。

7 スタンドの作動

スタンドが滑らかに作動し、がたつき等がないか確認します。

8 タイヤの空気圧、摩耗、損傷

タイヤの空気圧が適正な状態か確認します。空気圧は空気ミハル君の赤色のサイン、またはタイヤの接地面の長さで確認できます。空気圧が適正值でないと、パンクや車体各部のがたつきの原因になります。その他に、タイヤが摩耗していないか、釘などの異物がささっていないか確認します。

適正空気圧	
前 輪	280kPa (2.8kgf/cm ²)
後 輪	280kPa (2.8kgf/cm ²)



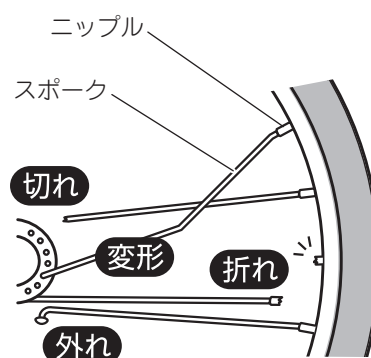
接地面の長さ(L) : 100～120mm
(測定時の参考条件 : 乗員体重60kg)

9 前後車軸とスポークの状態

前後車軸に、ゆるみやがたつきがないかを確認します。また、スポークやニップルの切れ、外れ、変形を確認し、みつかった場合は早急に交換してください。

⚠ 警 告

ホイールが変形し、ブレーキと接触して走行性が損なわれ、転倒するおそれがあります。スポークが一本でも外れたまま走行を続けると、他のスポークに大きな負担が繰り返し加わり、スポーク寿命が低下し、スポーク切れが継続して発生する場合があります。スポークは全て交換することをお勧めします。



乗車前点検

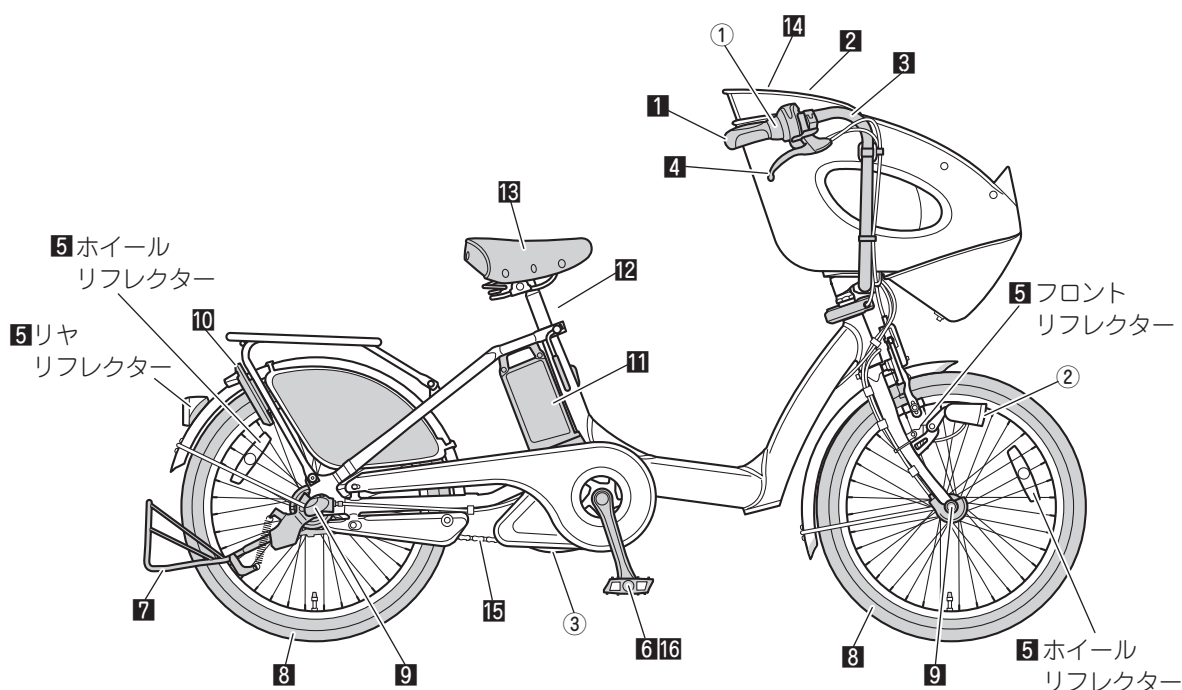
警告

- 乗車前点検を必ず実施してください。
- 点検で異常が認められた場合は、すみやかに販売店で点検してください。
- わからないことや難しいと感じた時は、販売店にご相談ください。

要点

- 走行前に確認を行う項目 **1～17**
- 走行開始してすぐに確認する項目 **①～③**

メインスイッチの電源を切った状態で点検してください。



10 後輪錠の作動

後輪錠が滑らかに作動するか確認します。

11 バッテリーの取り付け

バッテリーが自転車にしっかりと固定されているか確認します。また、バッテリーロックからキーを抜き取っていることを確認してください。

12 サドルの高さを調整するシートピン

シートピンがゆるんでいないか確認します。

13 サドルの状態

適切なサドル高さは、サドルにまたがった状態で両足のつま先がともに地面につくくらいの状態です。

また、サドルの固定に異常（ゆるみやがたつき）がないかを確認します。

14 バッテリーの残量

メインスイッチの電源を入れると、バッテリー残量ランプが表示されるので目安を確認します。

15 チェーンのたるみ

自転車を10cmほど持ち上げて軽く落としたとき、チェーンがフレームやチェーンケースに強く当たる程たるんでいないことを確認します。

16 電動アシストシステムの作動

メインスイッチの電源を入れた状態で、ペダルを踏み込み発進させ、電動アシストシステムが作動するか確認します。

17 リムのブレーキ面磨耗

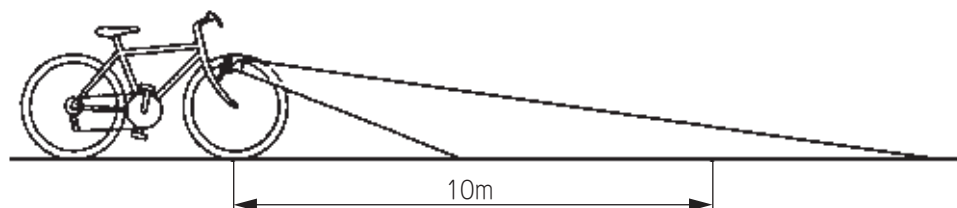
変形、ふくれ、キズ、ひび、きれつ、振れ、汚れがないことを確認します。

① 変速機の作動

走行時に変速操作をしても変速機が作動しないなど、変速機に異常を感じた場合は購入したお店にご相談ください。

② 前照灯の点灯／照射角度

前照灯の照射状態は、10m前方の路面部に光軸中心があるか確認します。



③ 電動アシストシステムの作動

発進時、電動アシストシステムの作動に異常がないか確認します。電動アシストシステムから通常発生しない異音、煙や異臭の発生など異常が認められたときは、ただちに使用をやめ購入したお店にご相談ください。

⚠ 注意

電動アシストシステムは精密部品です。分解などは決して行わないでください。
もし、異常が認められる場合はただちに使用をやめ購入したお店にご相談ください。

バッテリー残量の確認

バッテリー残量の見かた

電動アシスト自転車に乗る前には必ず、バッテリーの残量を確認めましょう。

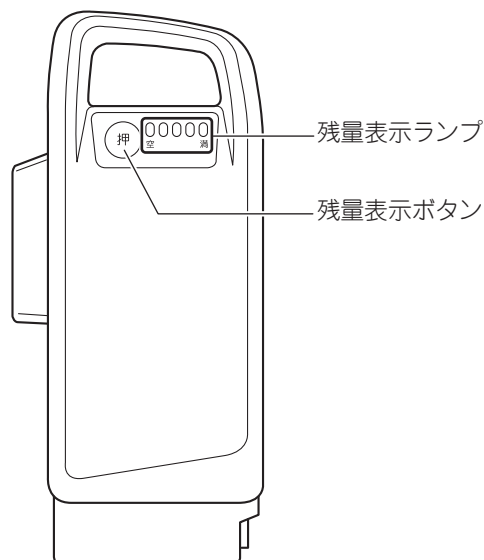
バッテリーにどの程度の容量が残っているか、どの程度充電されているかの目安を確認することができます。確認はメインスイッチ液晶表示部のバッテリー残量表示と、バッテリーのバッテリー残量ランプのいずれかで行うことができます。

メインスイッチ液晶表示部のバッテリー残量表示は、電源を入れる则表示します。




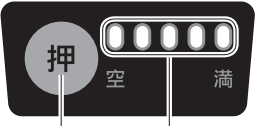
















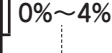


バッテリーのバッテリー残量ランプを確認するときは、バッテリー残量ランプの上側の残量表示ボタンを押します。

(バッテリーが車載状態でも、車両から取り外した状態でも同じです。)



バッテリー残量の確認

バッテリー残量ランプの表示とバッテリー残量の目安

バッテリー残量 20 40 60 80 100%	バッテリー部 残量表示ランプの表示状況	手元スイッチ部 液晶表示部の表示状況
 81%~100%	LEDランプ5つ点灯  残量表示ボタン 残量表示ランプ	目盛5つ アシストモード表示 
 61%~80%	LEDランプ4つ点灯 	目盛4つ 
 41%~60%	LEDランプ3つ点灯 	目盛3つ 
 21%~40%	LEDランプ2つ点灯 	目盛2つ 
 11%~20%	LEDランプ1つ点灯 	目盛1つ 
 5%~10%	LEDランプ1つ点滅 	数値点滅・目盛点滅  [数値点滅]
 0%~4%		数値点滅・目盛点滅  [数値点滅] [ザンリョウナシ表示:アシスト停止]

バッテリー残量に応じ、
10%ずつ表示が減ります。

バッテリー残量に応じ、
1%ずつ表示が減ります。

0%の点滅表示になります。
※バッテリー残量が0(ゼロ)
になると消灯します。














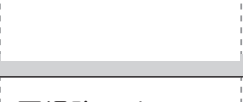


要 点

- バッテリーの容量が0(ゼロ)になっても普通の自転車として走行することができます。
- 古くなったバッテリーを使用していると、充電直後でも発進時にバッテリー残量ランプが急激に少なく表示することがありますが、故障ではありません。走行が安定し負荷が少なくなれば適切な数値を表示します。
- 長期間放置した電池は保護機能により電源が入らなくなる場合があります。その場合は充電器に一旦接続すると保護機能が解除されます。

走行モードについて

走行モードの使い分けかた

走行状況に合わせて、パワーモード、オートマチック、ロングモードの走行モードが選べます。イラストは走行状態の違いによるアシスト力の変化を示しています。

走行モード	特徴	アシスト制御イメージ			
		発進時	平坦路	ゆるい上り坂	きつい上り坂
					
パワーモード	急勾配坂道に				
オートマチック	アシストと距離の両方求めるときに				
ロングモード	長距離走行に				
		最初のこぎ出しをアシスト	平坦路ではアシスト力を抑制	登坂に対向してアシスト力を増加	さらにアシスト力をアップし走行サポート

※イラストはイメージです。路面や風など走行条件により変化します。

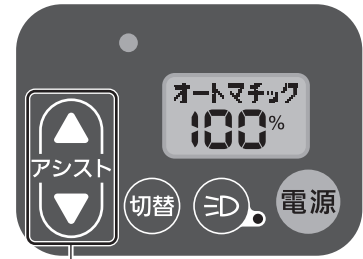
パワーモード	いつも力強いアシスト力でサポートするモード	漕ぎ出しやきつい上り坂など十分なアシスト力が必要なときに使います。
オートマチック	パワーと距離のどちらも満足できるモード	走行条件によりアシスト力を自動的にコントロールします。 平坦な道や緩やかな坂道などで使います。
ロングモード	節電し走行距離を伸ばすモード	長距離走行でも、アシスト力が欲しいときに使います。

走行モードについて

走行モードの表示と切り替え

メインスイッチの電源ボタンを押して電源を入れます。（電源が入っていると、ランプ類が点灯します）

走行モードランプは、選択されている走行モードを表示します。



走行モード切替ボタン

- 走行モード切替ボタンの“△”を押すと、[ロングモード] → [オートマチック]、または [オートマチック] → [パワーモード] と走行モードが切り替わります。
- 走行モード切替ボタンの“▽”を押すと、[パワーモード] → [オートマチック]、または [オートマチック] → [ロングモード] と走行モードが切り替わります。

⚠ 警告

ペダルに足を乗せたまま、メインスイッチの電源を入れないでください。

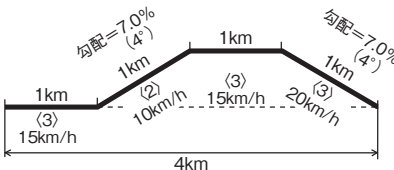

要 点

- 走行モードの切り替えは、走行中、停止中にかかわらずいつでもできます。
- 走行モードの切り替えとバッテリー残量ランプの機能とは関係ありません。
- 電源を入れると、前回電源オフした時に選択されていた走行モードで起動します。
- 走行モード切替ボタンの“△”または“▽”を押し続けても、走行モードは一巡しません。

充電あたりの走行できる距離

一充電あたりの走行距離

一充電あたりの走行距離の目安は、以下のとおりです。
また、選択する走行モードにより走行距離は変わります。

走 り か た	走行距離							標準パターンで 連続走行した場合
	10km	20km	30km	40km	50km	60km	70km	
標準パターン								標準パターンを連続して 走行した場合 [勾配7.0% (4°)の上り坂 を变速ギヤ<2>で、その 他を变速ギヤ<3>で走行 した場合]
	パワーモード: 39km							
	オートマチック: 49km							
	ロングモード: 68km							
4° 登坂連続パターン								速 度 10km/h で、勾 配 7.0% (4°)の坂道を連続 走行した場合 [变速ギヤ<2>]
	パワーモード: 13km							
	オートマチック: 16km							
	ロングモード: 22km							

要 点

- 上の表は、無風の平滑乾燥路を積載重量65kg (乗員と荷物の合計重量)、新品状態のバッテリー、常温15～25℃、無灯火 (無点灯)、の条件でパワーモードもしくはオートマチックで走行距離を測定したときの弊社データです。
- 同一条件で走行距離を測定しても、勾配を緩やかにした場合 (例えば、標準パターンで勾配が3.5% (2度) になった場合) は、走行距離が増える傾向にあります。ロングモードの場合、この傾向が顕著に見られます。

充電あたりの走行できる距離

走行距離に影響を与える環境

以下の状況で走行した場合は、アシスト走行可能な距離が短くなる可能性があります。

 <p>発進・停止の頻度が高い</p>	 <p>積載物が重い(多い)</p>	 <p>急坂の登坂</p>
 <p>走行する路面の状態が悪い</p>	 <p>強風</p>	 <p>低温時</p>
 <p>タイヤの空気圧が低い</p>	 <p>バッテリーの性能が劣化している</p>	
 <p>幼児が同乗している</p>	 <p>ライト(前照灯)が点灯している</p>	

整備不良の場合にも、走行距離が短くなる可能性があります。

走行距離が短くなる整備不良の例：常時ブレーキが効いている。(引きずっている)

発進のしかた

乗る前に…

- 電動アシスト自転車に乗る前は必ず乗車前点検を励行しましょう。
(乗車前点検の点検項目はP30～P33をご参照ください。)

1

後輪錠を開錠しましょう。

- 開錠後、キーは後輪錠に付けたまま走行します。

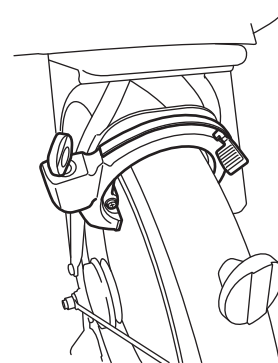
警告

バッテリーロックのキーは必ず抜いてください。

注意

走行中に車輪に巻き込まれやすいようなキーホルダーは付けないでください。

後輪錠



2

ペダルに足をかけないでメインスイッチの電源ボタンを押して、電源を入れます。必要に応じ走行モードの切替をします。

要点

- 走行中等ペダルに踏力をかけた状態で電源を入れますと、アシストが弱くなる場合があります。再度電源ボタンを押して、電源を入れ直してください。
- メインスイッチの電源を入れても、自転車が停車した状態が10分間以上継続した場合、バッテリー消費を軽減するために自動的に電源が切れる機能を備えています。

【自動電源オフ機能】

但し、ペダルに踏力がかかっていない状態であっても、メインスイッチの操作をしていれば電源は切れません。

- 自動電源オフ機能が作動した後でもメインスイッチの電源ボタンを押すと、再び電源が入ります。



電源ボタン

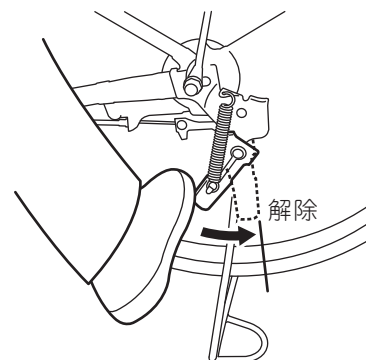
発進のしかた

3

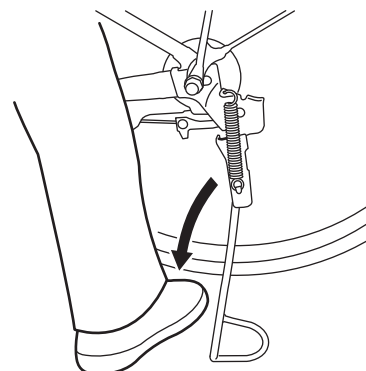
スタンドをはね上げます。

スタンドのはね上げ方

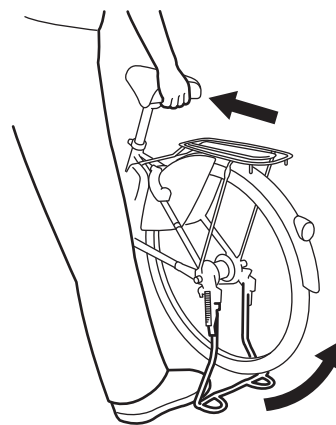
①両手で自転車を支え、ロックレバーを足で後へ押して、ロックを解除します。



②解除したら、必ずロックレバーから足を離します。



③スタンド下部を足で押さえて自転車を前へ押し、スタンドをはね上げます。



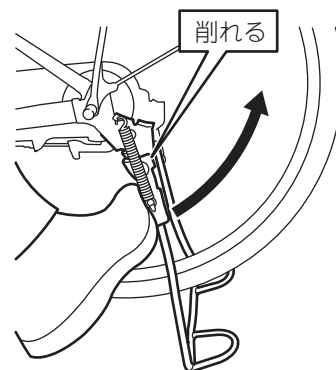
⚠ 注意

- 後輪錠を開錠してから、スタンドをはね上げて（解除）ください。

施錠したまま自転車を動かすと、カンヌキがスポークやバルブとぶつかり、破損するおそれがあります。

- ロックレバーを押しながらスタンドをはね上げないでください。

部品が削れてくぼみができ、動きが悪くなるおそれがあります。



発進のしかた

4

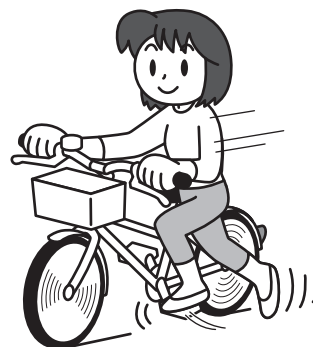
サドルに座り、ペダルに片足を乗せて発進の準備をします。走り出す前に前後左右の安全を確かめ、発進の合図をしてからペダルをゆっくりと踏み込みます。

電動アシストシステムはペダルを踏み込むと瞬時に作動します。走行中はモーターが作動しているため、モーター音が発生します。



警告

- けんけん乗り（片足をペダルに乗せて助走し、反動をつけてサドルに座る乗りかた）はしないでください。転倒や接触によって怪我をするおそれがあります。

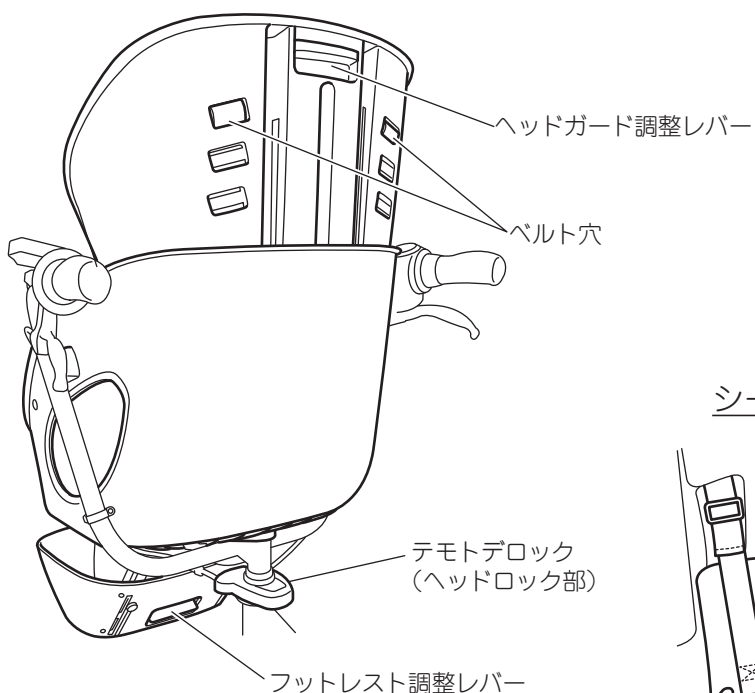
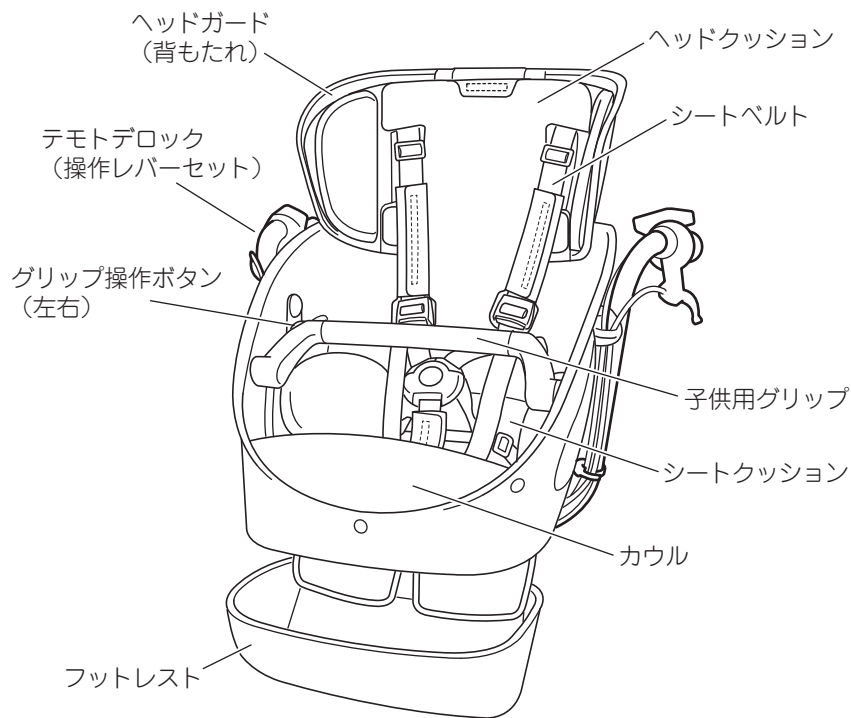


- 空き地や公園などでよく練習し、電動アシストシステムを使用しての走行に十分に慣れてから一般道路でお乗りください。また、電動アシストシステムを使用しての走行に十分に慣れるまでは「オートマチックモード」を使用することをおすすめします。

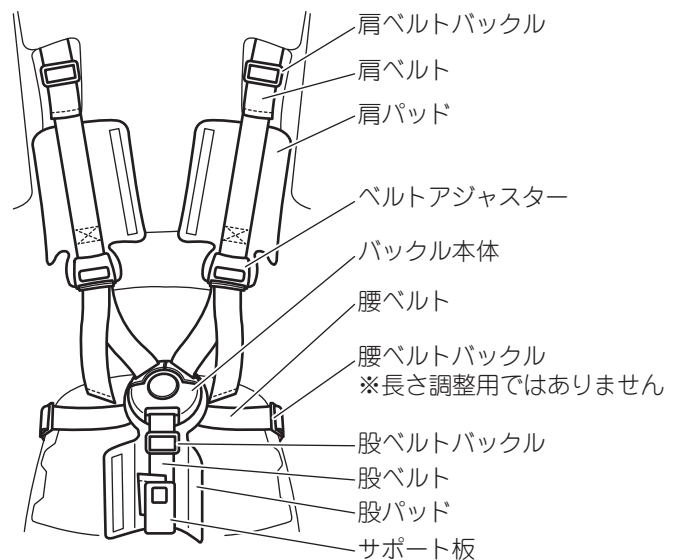


チャイルドシートの使い方

1. 各部の名称



シートベルト詳細



チャイルドシートの使い方

2. クッションの組み付け方法

別売りのクッションとベルト用パッドを組み付けます。
(クッションの組立説明書も合わせてお読みください。)

■クッションの取り付け方法

① ヘッドクッションの取り付け

肩ベルトをクッションのベルト穴のカットから通し、肩ベルトをクッションのベルト穴に合わせながら、クッション裏側のマジックテープとヘッドガードのマジックテープの位置を合わせて組み付けます。

② シートクッションの取り付け

股ベルトをバックル本体およびサポート板と共に、クッションのベルト穴に通し、クッション裏側のマジックテープと本体のマジックテープの位置を合わせ組み付けます。

③ 肩パッドの取り付け

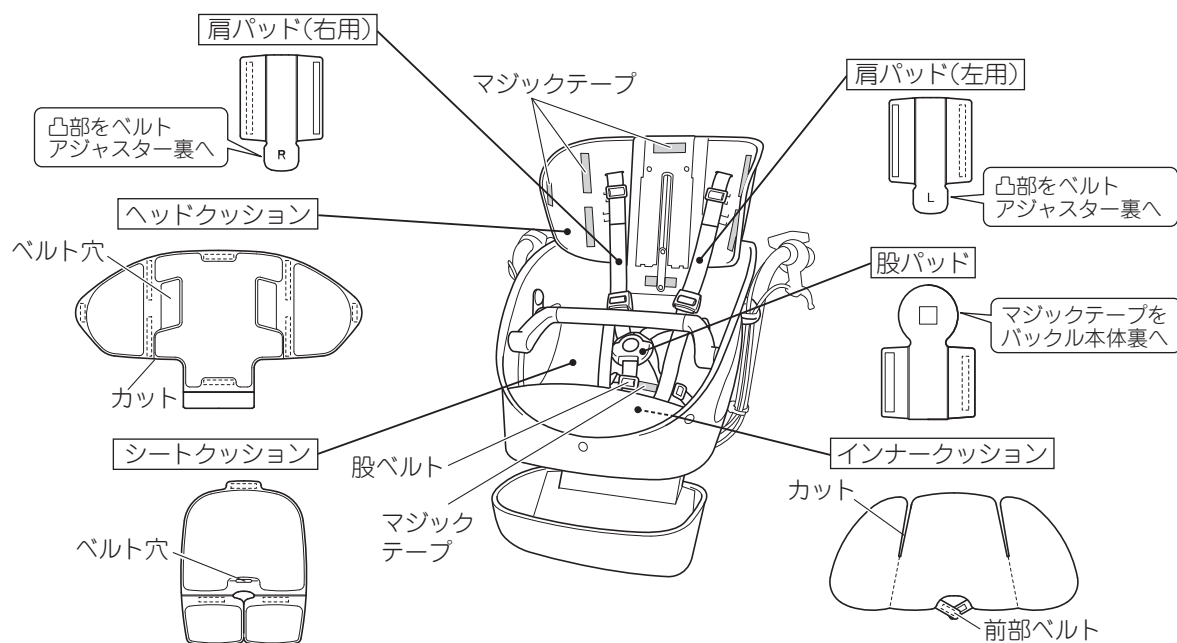
肩パッドの凸部をベルトアジャスター裏側に合わせ、肩ベルトの裏側より覆います。

④ 股パッドの取り付け

股パッドのマジックテープをバックル本体裏のマジックテープの位置を合わせ、股ベルトとサポート板を裏側より覆います。

⑤ インナークッションの取り付け

お子様の体格に合わせ、ご使用ください。前部ベルトを股ベルト(パッド)に巻き付ける様にシートクッションの上に重ねて置いてください。腰ベルトはカットを通して取り出してください。



⚠ 注意

雨降り時にはクッションに水が染込むことがあります。クッションが濡れたときは、クッションを乾かしてから使用してください。

チャイルドシートの使い方

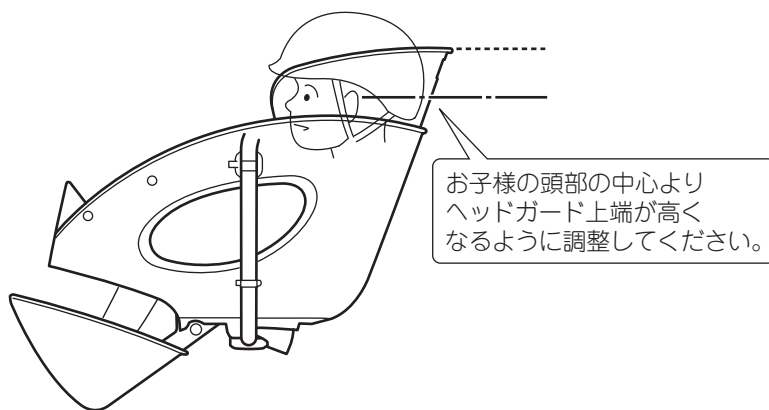
3. チャイルドシートの操作方法

■ヘッドガード(背もたれ)の使い方

⚠ 注意

ヘッドガードの高さ調整の際は、ヘッドガードと本体の隙間で手を挟まないように注意してください。

- ヘッドガードはお子様の体格に合わせて高さを調整してください(可動範囲は約14cm)。



- ① ヘッドガード調整レバーを握り、ヘッドガードを上下させて、適切な高さに調節します。



- ② ヘッドガードを適切な高さに調節したら、ヘッドガード調整レバーから手を離します。
- ③ ヘッドガードを軽く上下に動かし、確実に固定されたことを確認してください。
ヘッドガードが固定位置でない時は、軽く上下に動かすことにより、カチッと音がして固定されます。

チャイルドシートの方

■フットレスト（足のせ）の使い方

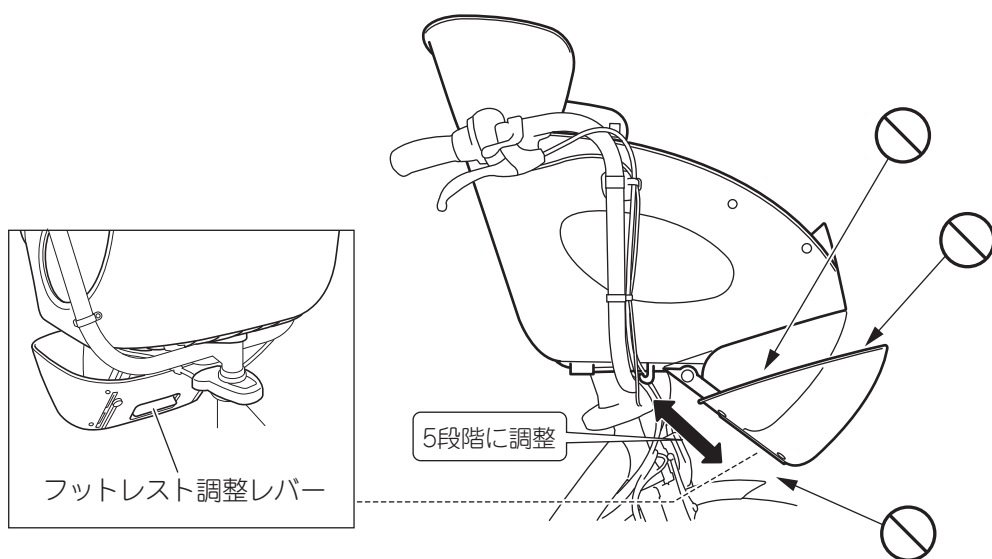
- フットレスト（足のせ）はお子様の体格に合わせて高さを5段階に調整することができます。
- バスケットとしてお使いなるときは、足乗せを閉じてください。

⚠ 警告

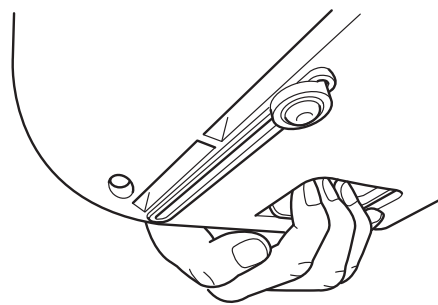
- フットレストを閉じるとき、⊙→で指した隙間に手や足をはさまないようにご注意ください。
- お子様を乗せているときは、お子様の手や足を隙間に挟まないようにご注意ください。

⚠ 注意

ドロヨケ、タイヤに手をぶつけるおそれがあります。ゆっくり操作してください。



- ① フットレスト調整レバーを握り、フットレストを上下させて、適切な高さに調整します。
- ② フットレストを適切な高さに調整したら、フットレスト調整レバーから手を離します。
- ③ フットレストを軽く上下に動かし、確実に固定されたことを確認してください。
フットレストが固定位置でない時は、軽く上下に動かすことにより、カチッと音がして固定されます。

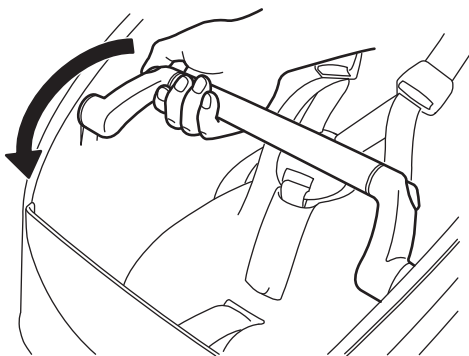


チャイルドシートの方

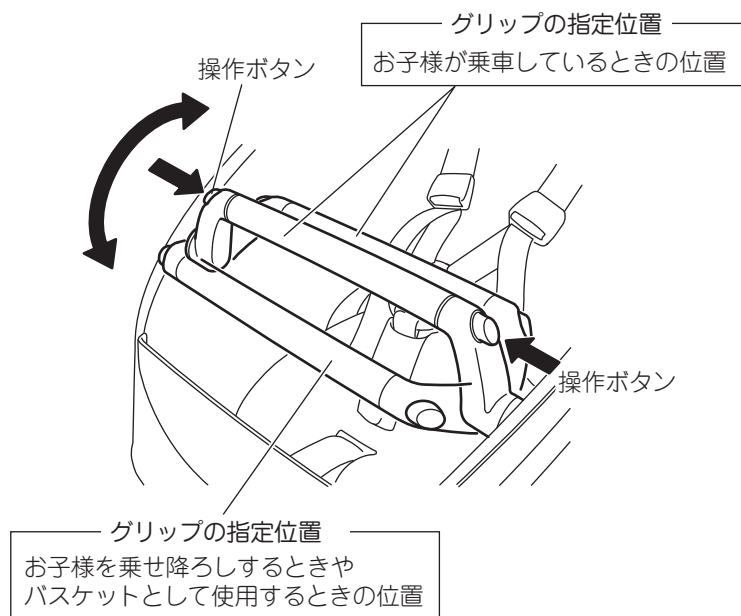
■子供用グリップの使い方

⚠ 警告

- グリップは、お子様に合わせて調整し、確実に固定してください。
 - グリップを持って自転車を持ち上げないでください。こわれて自転車を落とすおそれがあります。
- お子様に乗っているときはグリップを後側または真中にしてください。
- お子様を乗せ降ろしするときや、バスケットとして使用するときにはグリップを前側にしてください。
- ① 左または右の操作ボタンのどちらか一方を指で押しながら、グリップを回転させるように動かします。



- ② グリップが固定位置より少し動いたら、操作ボタンより指を離して、そのままグリップを回転させると、次の固定位置でカチッと止まります。



- ③ 利用状況に合わせてグリップを指定された位置にします。

チャイルドシートの方

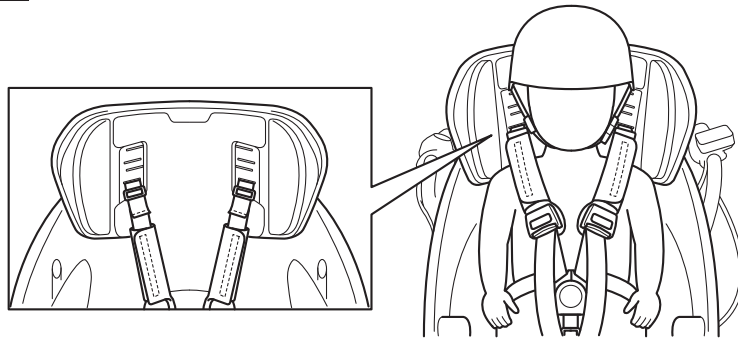
■シートベルトの使い方

シートベルトはお子様の体格や服装に合わせて長さを調整してください。

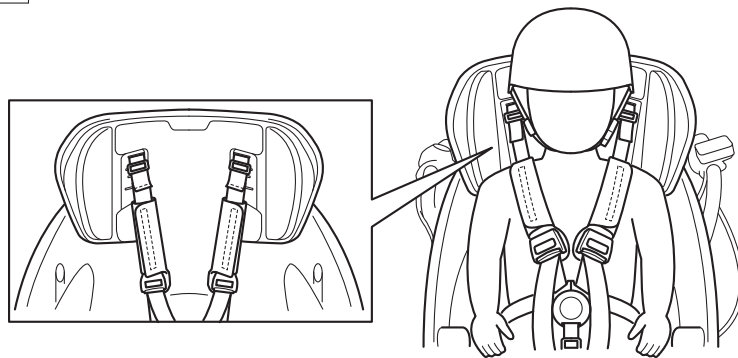
調整後は確実にシートベルトを固定してください。

お子様の体格によりシートベルトの固定位置が3段階に設定できます。

小さいお子様の使用例



大きいお子様の使用例



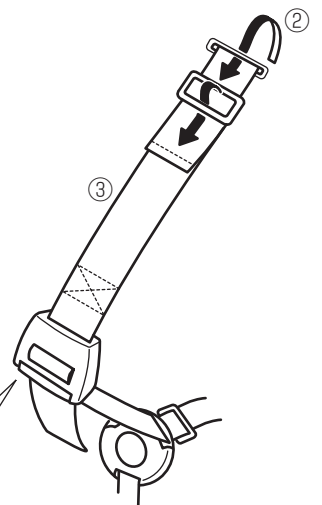
〈シートベルトの固定位置(高さ)を変更する場合〉

① 肩ベルトをバックルおよびヘッドガードベルト穴から外します。

② ヘッドガードの他のベルト穴に肩ベルトを下穴から上穴に通します。

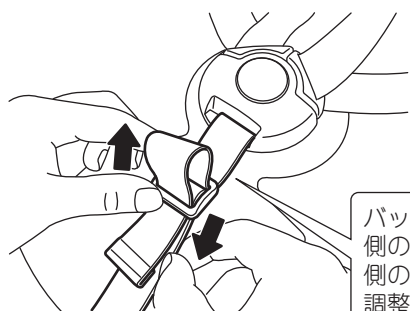
③ バックルへも通し、肩ベルトの長さを調整します。

※肩ベルトの長さ目安
肩パッドが肩の上にくるようにして、
ベルトアジャスターが胸の前(上図)
になるよう調整してください。

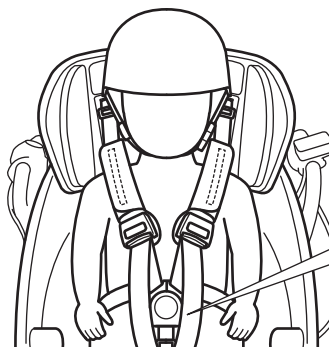


チャイルドシートの使い方

- 股ベルトバックルを操作して、股ベルトの長さを調節します。



バックルに通している上側のベルトを緩めて、下側のベルトを引っ張って調整します。

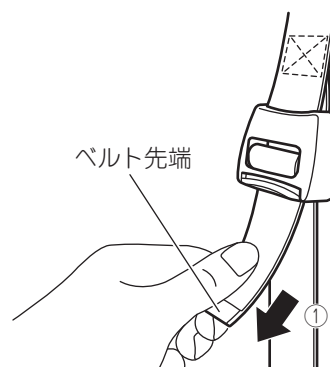


股ベルトの長さは、バックル本体がおなか辺りになる長さを目安に調整し、股パッドがサポート板から外れないようにしてください。

- ベルトアジャスターを操作して、腰ベルトの長さを調節します。

締める時

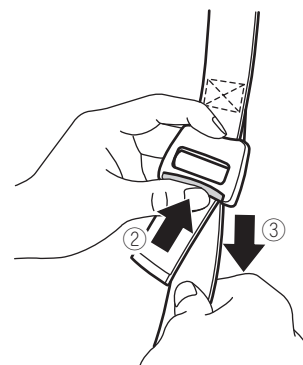
- ① 腰ベルトのベルト先端を下方に引き出します。



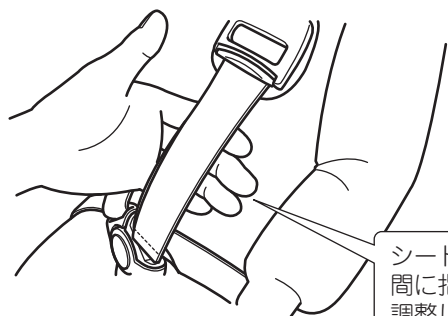
緩める時

- ② ボタン（赤茶色）を押します。

- ③ 上記②の状態のままで、もう一方の手で腰ベルトを引き下げます。



⚠ シートベルト調整時のポイント



シートベルトとお子様の間に指が軽く入る程度に調整してください

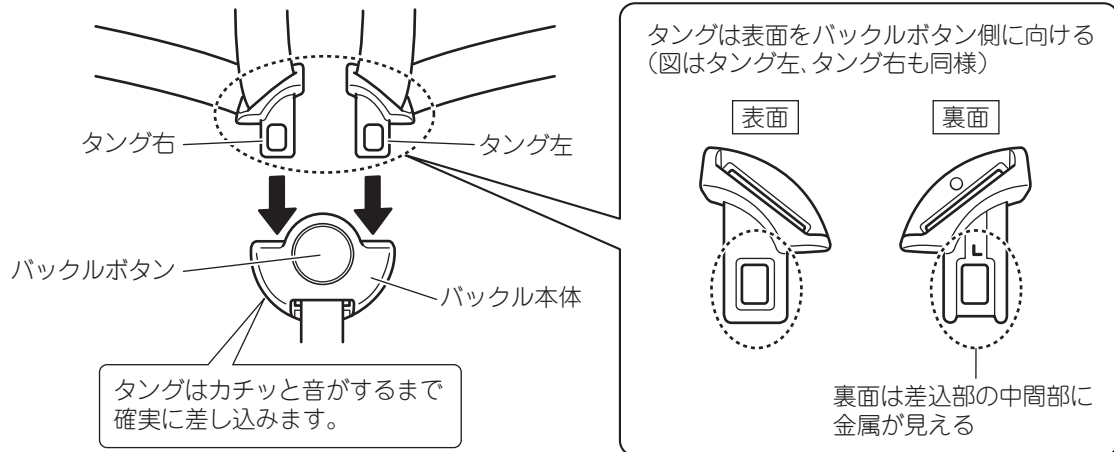


チャイルドシートの方

〈バックルの固定・解除〉

- タングは左右別々に固定し、左右同時に解除することが出来ます。

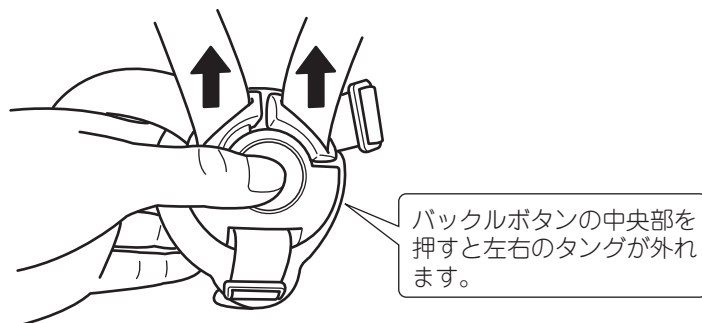
固定する時



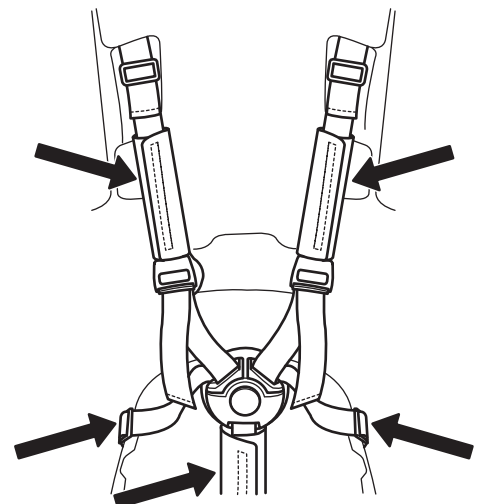
⚠ 警告

タングを差し込んだら、左右のタングを軽く引っ張り、抜けないことを確認してください。

外す時



- ベルト長さ調整時及び使用時は肩、腰、股ベルトがねじれていないことを確認してください。

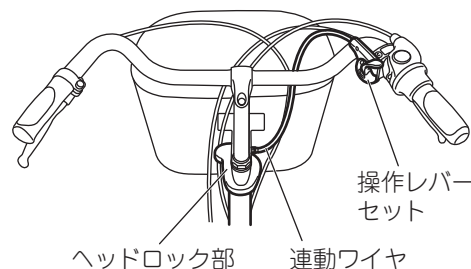


テモトデロックの操作方法

「テモトデロック」は、駐輪時に自転車を安定させるために行なう「ハンドル(ヘッド)の回転をロック(半固定)／解除する操作」を、ハンドル右側のレバー操作で行なえる旋回抑制機構です。

1. 構造・機能

- 「テモトデロック」はハンドル右側の「操作レバーセット」と、ハンドル下の「ヘッドロック部」の2つの部分が「連動ワイヤ」で連動しています。
- 「操作レバーセット」の操作で、「ヘッドロック部」が作動して、ハンドル(及びマエホーク、前輪)が左右に回るのを止める(半固定)ことができます。
但し「テモトデロック」をかけても、ハンドルに大きな力が加わると、音が出てハンドルが回ります。



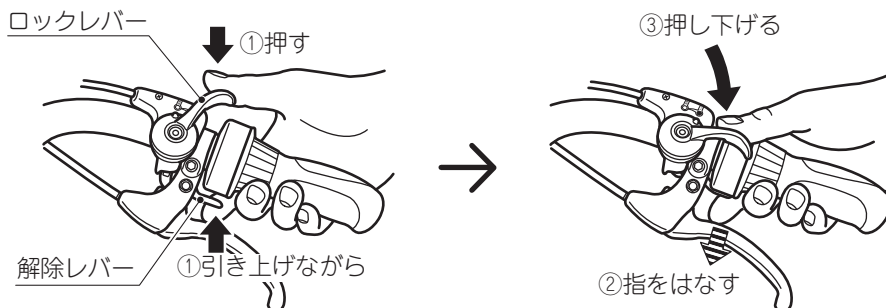
2. 操作方法(ハンドル右側の操作レバーセットを操作します)

1

駐輪する時(ハンドルを回らなくする時)

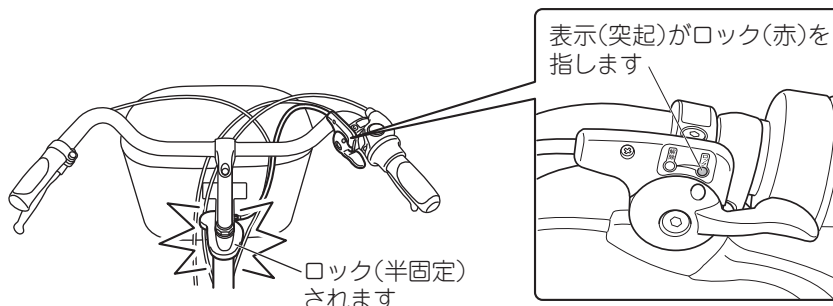
〈操作のしかた〉

- ① 解除レバーを人差し指で引き上げながら、ロックレバーを押し下げます。(＊1)
- ② ロックレバーが動き出したら、解除レバーから指をはなします。
- ③ カチッと止まるまでロックレバーを押し下げます。(＊2)



〈操作すると〉

ハンドルが回らなくなります。(＊3)



- ＊1 誤動作防止のため、初めに解除レバーを引き上げないと、ロックレバーが下へ動かせない安全機構になっています。
- ＊2 レバー操作が重い場合は、ハンドルを少し回転させながら操作してください。
- ＊3 ハンドルを無理に回すと、音が出てハンドルは回りますが、この状態での走行は危険です。

テモトデロックの操作方法

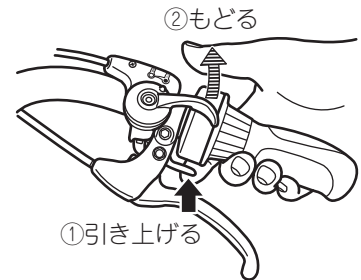
2. 操作方法(つづき)

2

乗車する時(ハンドルが回るようにする時)

〈操作のしかた〉

- ①解除レバーを人差し指で引き上げます。
- (②ロックレバーが上へもどります)



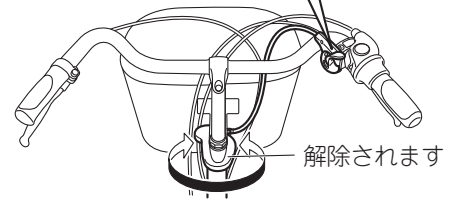
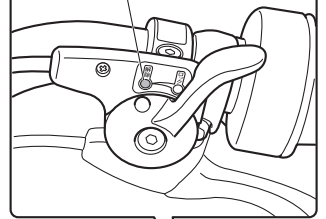
〈操作すると〉

ハンドルが回せるようになります。

⚠ 警告

走行する時は、必ずテモトデロックを解除してください。
ロック(半固定)したままだと通常ではハンドル操作できません。事故につながる危険があります。

表示(突起)が解除(青)を指します



3. 使用上のご注意

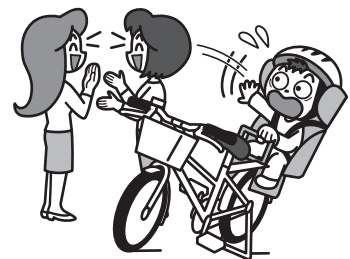
⚠ 警告

- テモトデロックはハンドルの回転を完全に固定するものではありません。テモトデロックをかけても、積載する荷物が重かったり、駐輪場所が不安定な場合には、ハンドルが回って、自転車が動いたり、倒れたりするおそれがありますのでご注意ください。

特にお子様を自転車に乗せたまま、自転車から離れないでください。

自転車が倒れてお子様が地面にぶつかり、けがをする危険があります。

- 地面が平らで安定した場所に駐輪してください。地面が傾いていると、自転車が倒れるおそれがあります。特にお子様を乗せ降ろしする場合は、ご注意ください。
- 安定した駐輪のため、ハンドルは前方(直進方向)に向けて駐輪してください。



テモトデロックの操作方法

3. 使用上のご注意(つづき)

⚠ 警告

- 走行中のロック操作は絶対にしないでください。
また、お子様を同乗させた時は、お子様がレバーを押したりしないように注意してください。走行中にハンドルの操作ができなくなったり、駐輪中にロック(半固定)したハンドルの回転が解除して、転倒や事故につながる危険があります。
- ロックレバーに買い物袋などをひっかけない。荷物の重みでロックレバー内部が破損したり更に走行中ヘッドがロック(半固定)するおそれがあります。



レバーをさわらせない

⚠ 警告

乗車の前は、必ず次の項目を確認してください。

- ロックレバーが上がっていること。
- ハンドルが滑らかに回転すること。
- 解除レバーを操作しないと、ロックレバーを下まで押せないこと。(安全機構動作確認のため)
- 連動ワイヤに異物が引っ掛かったり、リヤブレーキワイヤとのクリップから外れていないこと。
- 不適切な取り扱いや調整は人身事故につながる危険があります。不明な点は、販売店にご相談ください。

❗ 強制

次のような場合は、乗車せずに、すぐに販売店にご相談ください。

- 操作レバーセット、ヘッドロック部、連動ワイヤのいずれかが破損している場合。
- 連動ワイヤが、操作レバーセット、ヘッドロック部から外れている場合。
- ロック(半固定)時のハンドル固定力が初期より低下した場合。
(ロックしてもハンドルが簡単に回ってしまう場合)

【操作レバーセット／解除時】

- ハンドル操作に異常を感じた場合。ハンドルがロック(半固定)されている場合。
- ロックレバーが上に戻らない場合。
- 操作レバーセットのインジケータ表示が解除(青)にならない場合。

【操作レバーセット／ロック時】

- ハンドルがロック(半固定)されない場合。
- ロックレバーが下側で固定されない場合。
- 操作レバーセットのインジケータ表示がロック(赤)にならない場合。

安全な使いかた

お子様をチャイルドシートに乗せるときは

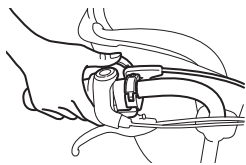
安全対策をした幼児2人同乗基準適合車でも、お子様の安全な乗せ方、降ろし方を行わないと思わぬケガをする恐れがあります。

お子様2人を同乗させる場合は、次の手順で行ってください。【ブリヂストンサイクル推奨例】
お子様1人に乗せる場合は、下記⑤⑥または⑦⑧を省略してお読みください。

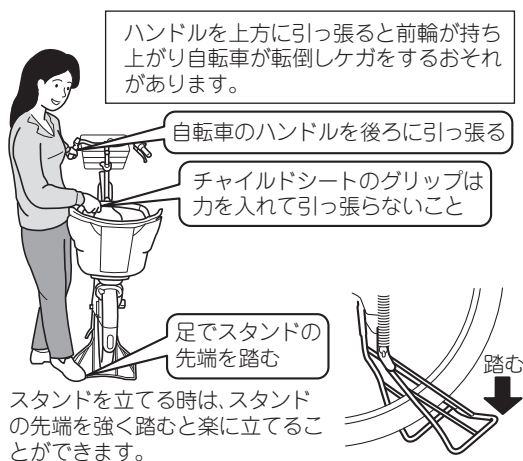
⚠ 警告

- お子様は、必ず荷物より後に乗せてください。

- ① お子様に乗せる前に、「テモトデロック」を操作し、ハンドルが回転しないように必ず※¹ロック（半固定）してください。



- ② 自転車が転倒しないように、※²安定性のよい平らな場所を選び、スタンドがしっかり立っていること、スタンドのロックがかかっていることを確認してください。スタンドを立てる際は、チャイルドシートのグリップを引っ張らずに、自転車のハンドルを引っ張りながらスタンドの端を踏んで、てこの原理を利用して立ててください。

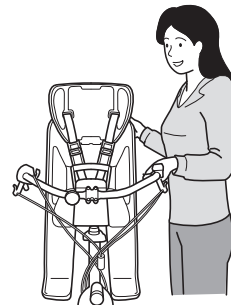


- ※³ 自転車を持ち上げる必要があるときは、リヤチャイルドシート（後幼児座席）のフットレストやグリップをもって持ち上げないでください。



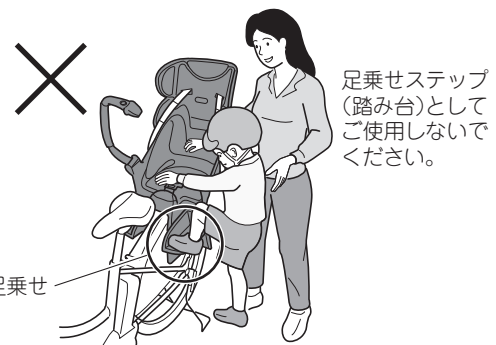
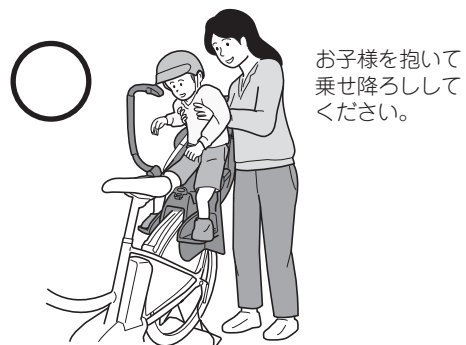
- ③ 2人のお子様ヘルメットを着用します。

- ④ 保護者は自転車が倒れそうになった場合でも、すぐに手で支えられる位置に立っているようにしてください。



- ⑤ まず初めに年長のお子様から先に、必ずしっかりと抱いて※⁴リヤチャイルドシート（後幼児座席）に乗せます。

- ⊘ 自転車を炎天下に放置した場合は、お子様をチャイルドシートに乗せる際、やけどに十分注意してください。

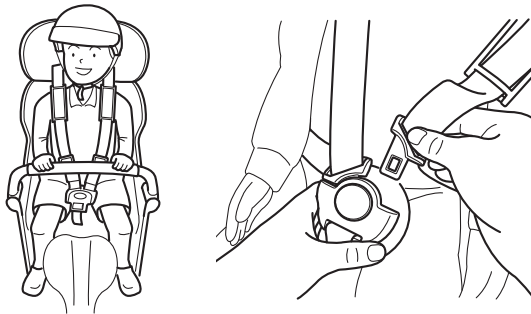


安全な使いかた

お子様をチャイルドシートに乗せるときは(つづき)

⚠ 警告

- ⑥ お子様の後頭部をカバーするようにヘッドガードを調整し、シートベルトを確実に装着します。



お子様がチャイルドシートに着座したとき、ヘッドガード上端が頭部の中心より高くなるように調整してください。

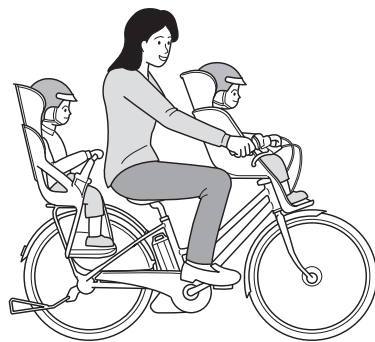


- ⑦ 次に年少のお子様をしっかりと抱いてフロントチャイルドシート(前幼児座席)に乗せます。
- ⑧ リヤチャイルドシートと同様にヘッドガードを調整し、シートベルトを確実に装着します。

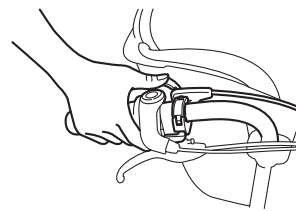
- ⑨ お子様に乗せるとき、乗せたあとは、必ず正しい姿勢(正しく着座)であることを確認し、特に足が車輪に巻き込まれることのないように注意してください。(③、⑥、⑧参照)

- ⑩ スタンドを上げてから、保護者が自転車に乗ります。

※³ 自転車を持ち上げる必要があるときは、リヤチャイルドシート(後幼児座席)のフットレストやグリップをもって持ち上げないでください。



- ⑪ ※⁵ ハンドルグリップをしっかりと握ってから、「テモトデロック」を操作し、最後にロックを解除します。



- ※¹ 「テモトデロック」はハンドルの回転を完全に固定するものではありません。
- ※² 傾いた場所で「テモトデロック」を解除した場合、路面の傾き等により不用意に自転車が動き転倒する恐れがあります。
- ※³ 想定外の負荷により、フットレストやグリップが破損する場合があります。
- ※⁴ お子様をリヤチャイルドシートに乗せる際は、フットガード(足のせ部)に強い力を加えないでください。
- ※⁵ バランスを崩した際にグリップから手が離れると、とっさに指をレバーのすき間などに挟む恐れがありますので、グリップをしっかりと握ってください。

安全な使いかた

走行時は

⚠ 警告

- 必ずシートベルトを使用してください。
- シートベルトが車輪に巻き込まれないように注意してください。
- 傘を差しながらの片手運転など、危険な行為は絶対にしないでください。
- 段差のある場所ではお子様を乗せたまま走行しないでください。
- 走行中にお子様チャイルドシートの中で立ち上がったり暴れたりしないよう、注意してください。



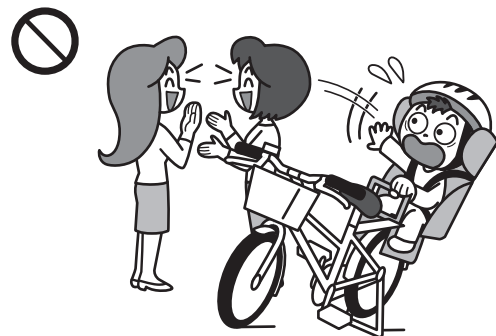
- お子様乗車中はグリップを握らせてください。自転車のハンドルを握らせると、スキマに手・指をはさむおそれがあります。



- お子様眠らないように注意してください。
- お子様走行中に自転車用錠を操作しないように十分注意してください。



- 使用に当たっては交通法規を守ってください。
- お子様を乗せたまま自転車から短時間であっても手を離さないでください。自転車が倒れてお子様がケガをするおそれがあります。



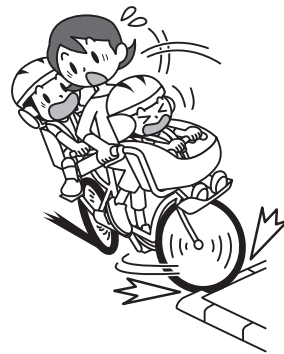
幼児2人同乗時の注意

⚠ 警告(危険です、必ずお守りください!)

- お子様を2人同乗させて自転車に乗るときはスニーカーなど、かかとの低い靴をはいてください。また、スリッパや足から脱げやすい靴ははかないでください。ペダルから足を踏み外すと、転倒する危険があります。
- フロントチャイルドシートによって、前方(特に下側)が見えにくくなります。このため、安全な場所で視界の確認をしてから使用してください。また、見える範囲の前方の障害物によく注意してください。
- お子様を2人同乗させた時は、自転車は同乗させない時に比べ運転しづらくなり、転倒する危険が増します。
 - ・ お子様の乗せ降ろしや自転車の押し歩き・走行を安全な場所で練習してから使用してください。
 - ・ 発進時や低速走行時には、ハンドルが振れることがあるので、特に注意してください。
- 道路に傾斜や段差や溝があるときはハンドルをとられやすいので、押して歩くか、ゆっくり注意して通過してください。

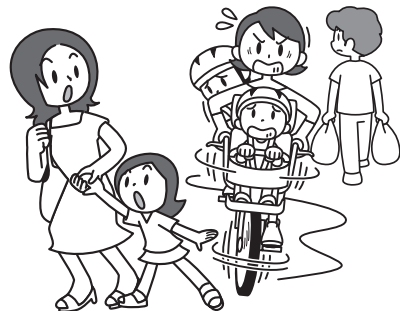
- お子様を2人同乗させた時は、自転車全体の重さが増えるので、ハンドル操作に大きな力が必要になり、押し歩き時にもバランスを崩し、自転車の立て直しができずに転倒しやすくなります。このため、下記に注意してください。

- ・ ハンドルを急に切らないでください。
ハンドルを大きく切った際に、前輪が前または後に意図しない回転をして転倒することがあります。傾斜面や路面の凹凸があるところでは、特に起こりやすくなります。



- ・ 歩行者などとすれ違う際によけるときは、ハンドル操作などに注意してください。

狭いところを押し歩いたり、歩行者や自転車と接触したり、同乗させているお子様の動き、路面の凹凸傾斜などによりバランスをくずしやすくなります。

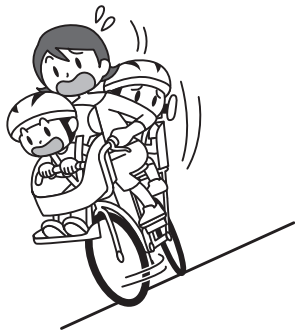


幼児2人同乗時の注意(つづき)

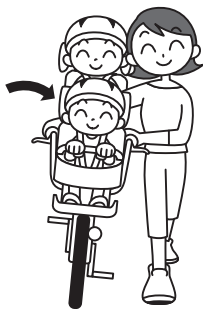
⚠ 警告(危険です、必ずお守りください!)

- バランスをくずしにくい押し歩きの方法
押し歩き時には同乗のお子様の動きや路面の凹凸・傾斜などによるわずかなバランスのくずれによって、自転車の立て直しができずに転倒することがあるので、お子様を自転車から降ろして押し歩きをしてください。

やむをえず、お子様を同乗させて押し歩きを行う場合には、転倒の危険がありますので、以下の事項を考慮して慎重に押し歩きを行ってください。



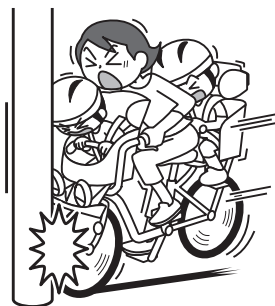
- 自転車は垂直より少し手前に傾けて、ハンドルを握り、ブレーキがすぐにかけられるようにしてください。



- 同乗のお子様が動かないように注意するとともに、路面の凹凸・傾斜などに注意して、バランスをくずさないようにしてください。
- 押し歩きのための十分な空間がある場所であることを確認し、混雑した場所ではバランスをくずしやすいので、お子様を同乗しての押し歩きはやめてください。

- お子様を2人同乗させた時に衝突などの事故を起こした場合、自転車全体の重さが増えているので、同乗させないときに比べて衝突時の衝撃が大きくなります。このため、衝突などの事故を起こした場合は、同乗のお子様、運転者本人の被害が大きくなります。

また、歩行者や物に衝突などの事故を起こした場合も、同じく歩行者や物の被害(けが)が大きくなります。



以上のことは、お子様を1人のみ乗せた場合も同じですので、注意してください。

安全な使いかた

お子様をチャイルドシートから降ろすときは

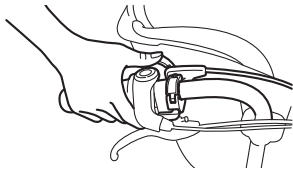
安全対策をした幼児2人同乗基準適合車でも、お子様の安全な乗せ方、降ろし方を行わないと思わぬケガをする恐れがあります。

お子様2人を同乗させた場合は、次の手順で行ってください。【ブリヂストンサイクル推奨例】
お子様1人を降ろす場合は、下記⑤または⑥を省略してお読みください。

⚠ 警告

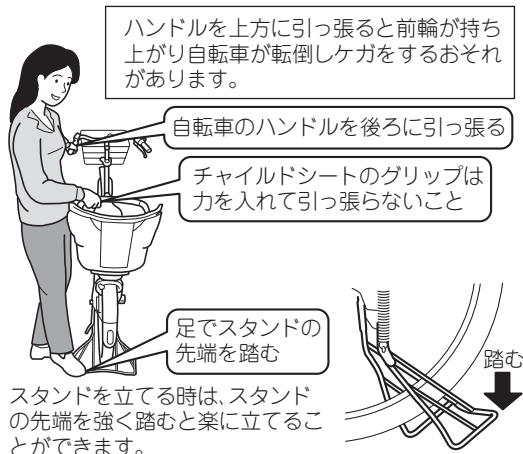
- お子様は、必ず荷物より先に降ろしてください。

- ① お子様を降ろす前に、「テモトデロック」を操作し、ハンドルが回転しないように必ず※¹※²ロック（半固定）してください。



- ② 保護者が自転車から降ります。

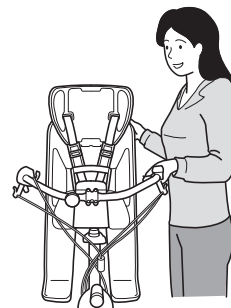
- ③ 自転車が転倒しないように、※³安定性のよい平らな場所を選び、スタンドがしっかり立っていること、スタンドのロックがかかっていることを確認してください。
スタンドを立てる際は、チャイルドシートのグリップを引っ張らずに、自転車のハンドルを引っ張りながらスタンドの端を踏んで、てこの原理を利用して立ててください。



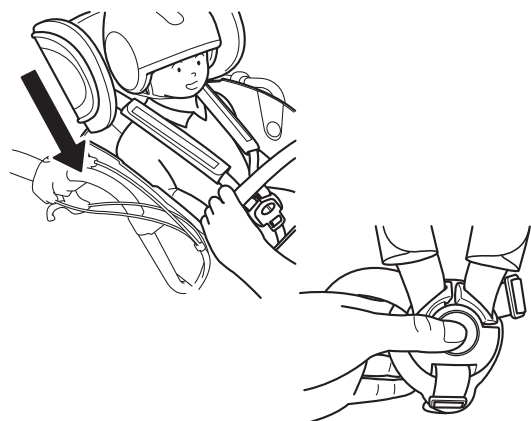
- ※⁴自転車を持ち上げる必要があるときは、リヤチャイルドシート（後幼児座席）のフットレストやグリップをもって持ち上げないでください。



- ④ 保護者は自転車が倒れそうになった場合でも、すぐに手で支えられる位置に立っているようにしてください。



- ⑤ フロントチャイルドシートのヘッドガードを下げ、シートベルトを外して、年少のお子様から先に、しっかり抱いて降ろします。



安全な使いかた

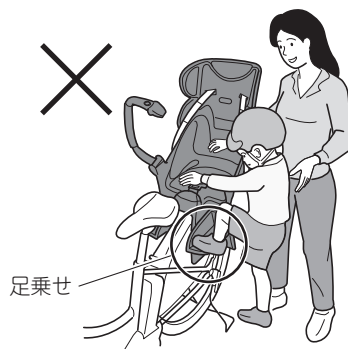
お子様をチャイルドシートから降ろすときは(つづき)

⚠ 警告

- ⑥ 次にリヤチャイルドシートのヘッドガードを下げ、シートベルトを外して、※⁵年長のお子様をしっかり抱いて降ろします。



お子様を抱いて
乗せ降ろしして
ください。



足乗せステップ
(踏み台)として
ご使用しないで
ください。

足乗せ

- ⑦ お子様のヘルメットは最後に外します。

- ※1 「テモトデロック」はハンドルの回転を完全に固定するものではありません。
- ※2 バランスを崩した際にグリップから手が離れると、とっさに指をレバーのすき間などに挟む恐れがありますので、グリップをしっかり握ってください。
- ※3 傾いた場所で「テモトデロック」を解除した場合、路面の傾き等により不用意に自転車動き転倒する恐れがあります。
- ※4 想定外の負荷により、フットレストやグリップが破損する場合があります。
- ※5 お子様をリヤチャイルドシートから降ろす際は、フットガード(足のせ部)に強い力を加えないでください。

保管のしかた

⚠ 警告

シートベルトは消耗品です。異常がなくても2年に1度は交換してください。

⚠ 注意

- 駐輪時等で、自転車を持ち上げる必要があるときに、フットレストやグリップをもって持ち上げないでください。想定外の負荷により、フットレストやグリップが、破損する場合があります。
- チャイルドシートは直射日光をさけて駐輪、保管し、雨ざらしにしないでください。早期劣化の原因となります。



変速のしかた

変速グリップの使いかた

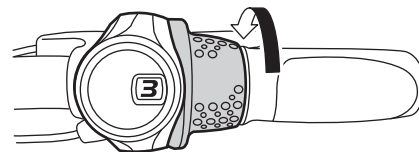
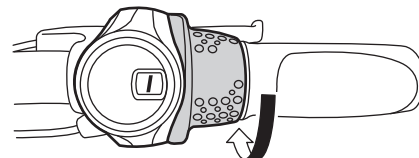
1

走行中の場合は、ペダルをこぐ足を止めます。

2

変速グリップを以下のように使用して、シフト位置を切替えることができます。

- 変速グリップを手前に回すとシフトアップします。
〈1〉→〈2〉→〈3〉
- 変速グリップを手前から前方（進行方向）へ回すとシフトダウンします。
〈3〉→〈2〉→〈1〉



警告

- 交通量が少ない場所など安全な状況で操作するようにしてください。
- 走行中に変速グリップの操作を行う場合は、変速グリップの操作に気をとられて、前方不注意にならないように注意してください。

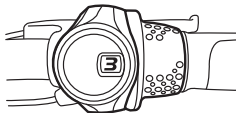
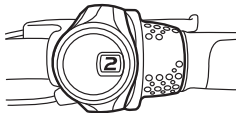
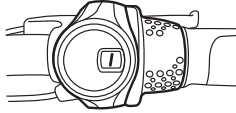
要点

- ペダルをこいでいる状態では変速グリップを操作しても変速できないことがあります。無理に変速グリップを操作すると、異音がしたり変速装置が故障する場合があります。上り坂の手前で変速するようにしましょう。
- 空き地や公園などで十分に練習し、変速操作に慣れておきましょう。

道路状況に合わせて早めに変速することを心がけ、適切なシフト位置で走行するようにしましょう。

適切なシフト位置

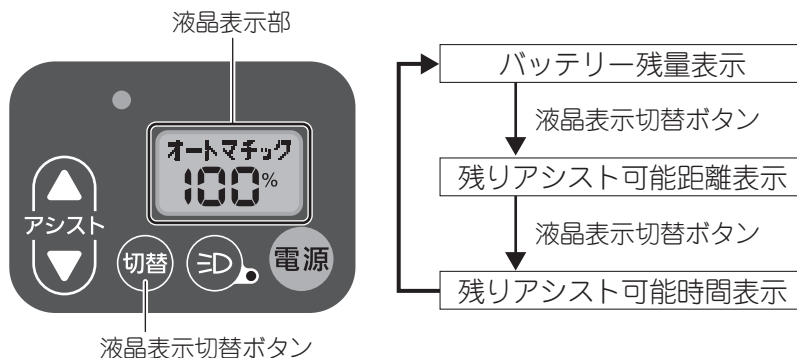
下表は、あくまで参考です。

道路状況	シフト位置		走行状態
平坦路から、ゆるやかな上り坂。 0～3.5% (0～2°) の勾配	〈3〉		ペダルがやや重くなり、スピードがでます。
ゆるやかな上り坂から、やや急な上り坂。 3.5～7.0% (2～4°) の勾配	〈2〉		通常走行時
やや急な上り坂から、急な上り坂まで。 7.0～10.5% (4～6°) の勾配	〈1〉		ペダルが軽くなり、上り坂走行に適しています。

メインスイッチの表示機能について

液晶表示部の表示内容と切替方法

液晶表示部には、「バッテリー残量」「残リアシスト走行可能距離」「残リアシスト可能時間(分)」のいずれかを表示することができます。



表示項目	表示内容	表示例
バッテリー残量	バッテリー残量の目安を割合(%)で表示します。詳細は「バッテリー残量の確認」をご参照ください。(P34~P35)	
残リアシスト走行可能距離	現在のバッテリー残量でアシスト走行ができる距離(km)の目安を表示します。	
残リアシスト走行可能時間	現在のバッテリー残量でアシスト走行ができる時間(分)の目安を表示します。	

⚠ 警告

メーター表示の切替の操作は走行中でも行えますが、前方不注意にならないようにしてください。

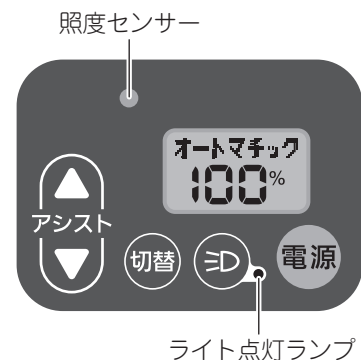
要点

- 残リアシスト走行可能距離、および残リアシスト走行可能時間は、装着するバッテリーの容量、走行状況(坂道、向かい風など)やバッテリーの劣化状況によって変化します。
- 残リアシスト走行可能距離、および残リアシスト走行可能時間が表示された状態でアシストモードを切り替えると、アシスト走行ができる距離・時間の目安は変化します。
- 残リアシスト走行可能距離は1km単位で表示します。残リアシスト走行可能距離表示が“0”であっても、バッテリー残量が残っている場合はアシストします。

前照灯について

オートライトシステム（前照灯の自動点灯・自動消灯）

このアシスタはオートライトシステムを装備しています。照度センサーが周囲の明るさ（照度）を検出し、前照灯が自動で点灯・消灯します。前照灯が点灯しているときは、ライト点灯ランプも点灯します。



⚠ 警告

前照灯が点灯した状態でバッテリー残量が減少しアシスト走行ができなくなると、前照灯はしばらくしてから消灯します。バッテリー残量が充分あることをご確認の上ご使用ください。

⚠ 注意

前照灯の取付角度を左右に調整することはできません。無理に曲げたりして調整しないでください。破損の原因となります。

要点

- 照度センサーについた汚れはこまめにふき取ってください。照度センサー部が汚れていると、周囲の明るさ（照度）を検出しにくくなり、周囲が明るくても前照灯が点灯することがあります。
- 照度センサーをカバーなどで覆うと、周囲の明るさ（照度）を検出できないため、オートライトシステムが正常に作動しません。
- 前照灯が点灯しているときに電源ボタンを押して電源を切ると、前照灯は消灯します。
- 電源が切れているときは、オートライトシステムは作動しません。
- 前照灯の取付角度を上下に調整する必要がある場合は、販売店にご相談ください。

前照灯について

前照灯の手動操作

ライトボタンを押すごとに、前照灯が点灯と消灯を繰り返します。前照灯が点灯しているときは、ライト点灯ランプも点灯します。



警告

前照灯が点灯した状態でバッテリー残量が減少しアシスト走行ができなくなると、前照灯はしばらくしてから消灯します。バッテリー残量が充分あることをご確認の上ご使用ください。

要点

- 電源ON状態からライトボタン押すとオートライトシステムが無効になります。
〈オートライトシステムを有効したい場合〉
メインスイッチの電源ボタンを押して一旦、電源を切り、再度、電源ボタン押して電源を入れてください。
- 電源OFF状態から、ライトボタンを押すことでもライトは点灯します。このとき、液晶表示部には“アシストナシ”と表示され、オートライトシステムは無効になり、アシスト力も働きません。
〈オートライトシステムを有効したい場合〉
メインスイッチの電源ボタンを押して一旦、電源を切り、再度、電源ボタン押して電源を入れてください。
〈アシストを動作させたい場合〉
電源ボタンを押してください。

電源OFF状態からライトボタンを押し、ライトを点灯させた時の表示



自動点滅ソーラーテールライトの取り扱い

自動点滅ソーラーテールライトの特徴

- センサーが明るさと振動を感知し、夜間走行時に自動点滅します。
- 太陽電池により内蔵充電電池を充電します。
- 静止後も約 1 分間点滅し続けるため信号待ちなどの停車中も安心です。

ご使用前に

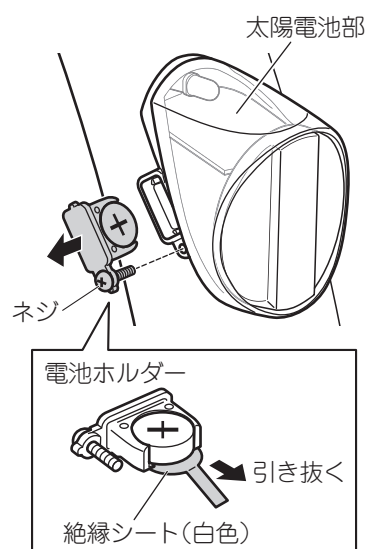
初めて使用する際は、下記を実施してください。

- ネジをゆるめ電池ホルダーを取り外してから、絶縁シート（白色）を取り除いてください。（右図）
- 絶縁シートを引き抜いた後、元通り電池ホルダーを本体に取り付け、ネジを締め付けてください。
（推奨締め付トルク：0.12～0.15N・m）

要 点

はじめに日光下で充電してから使用してください。

絶縁シートの取り外し方



太陽電池について

自動点滅ソーラーテールライトは太陽電池で内蔵充電電池を充電します。

⚠ 注 意

太陽電池部を覆ったり、暗い所へ自転車を置いておくと、充電できずに自動点滅しない場合があります。日光に当て、充電すると元に戻ります。

自動点滅ソーラーテールライトの取り扱い

お手入れ

レンズについた汚れはこまめに拭き取ってください。レンズの汚れがひどい場合は水もしくは中性洗剤の水溶液を布にしみこませてから拭き取ってください。

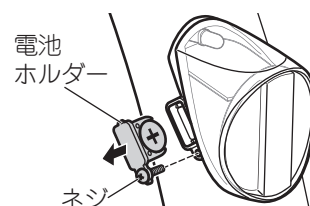
要 点

自動点滅ソーラーテールライトは暗くなって振動を感知すると自動的に点滅します。通常明るい時は点滅しませんが、レンズの汚れがひどいと光センサー受光部に光が届きにくくなるため、明るい昼間でも点滅することがあります。また太陽電池の充電効率も悪くなります。

充電電池の交換

太陽光を十分に当てても自動点滅しない場合は充電電池の寿命です。次の手順で交換します。

- 1 ネジを空回りするまでゆるめて電池ホルダーをまっすぐ引き抜く。



- 2 充電電池を交換する。



- 3 電池ホルダーを差込み、ネジを締め付ける。
(推奨締付トルク: 0.12~0.15 N・m)



充 電 池：ニッケル水素ボタン電池 (GP40BVH)

太陽電池：単結晶ソーラーセル

点滅時間：約8時間 (直射日光下2時間放置後満充電時・連続点滅)

⚠ 警 告

- 充電電池を交換する際は＋を正しく入れてください。
- 指定以外の電池は使用しないでください。
- 使用済みの充電電池は誤って飲み込まないように管理し、定められた方法で処理してください。
- 寿命の充電電池はライトに入れたまま放置しないでください。
- 保管の際は半年に1回は日光に当て充電してください。充電せず長期間、または高温下で放置すると電極が劣化し、液漏れを起こす恐れがあります。

荷物の積載

荷物の積みすぎには注意しましょう。

電動アシスト自転車の最大積載重量（乗員の体重と積載重量の合計）は90kgです。また、フロントバスケットおよびリヤキャリアそれぞれの最大積載重量と積載物の大きさの限度は下表のとおりです。

荷物を積みすぎるとアシスト走行時にバッテリーに過大な負荷をかけてしまいアシスト走行可能な距離が短くなる可能性があります。また、常に重い荷物を積んだ状態で走行しているとタイヤなどの部品の消耗が早くなる場合があります。



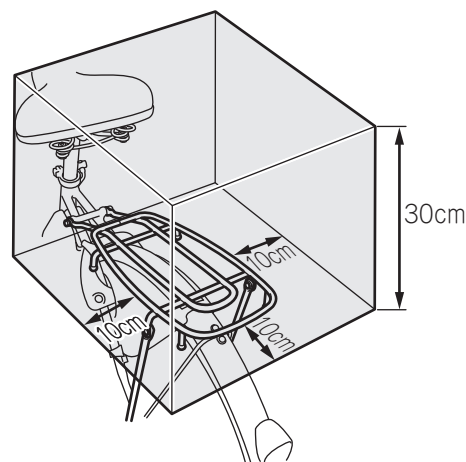
⚠ 警告

- 荷物の積みすぎは走行安定性を著しく低下させ危険です。また、フロントバスケット、リヤキャリア等からはみ出した荷物は他の歩行者や自転車、自動車などに接触するおそれがあるので危険です。電動アシスト自転車の最大積載重量および積載物の大きさの限度をこえないようにしてください。
- フロントバスケットまたはリヤキャリアに荷物を積むときは、左右のバランスをとって積んでください。また、荷物がずれたり動いたりしないよう、しっかりと固定してください。荷物が動くと走行が不安定になり、転倒などの事故につながるおそれがあります。
- リヤキャリアに荷物を積む時は、固定用のひも・ベルトでしっかりと固定し、ひも・ベルトがたるまないようにしてください。（車輪への巻き込み防止）
- 個人差があるため、表に記載の積載条件内の場合でも、運転に不安を感じた場合は、そのまま使用しないでください。

● 荷物の積載条件

● 荷物の重量

最大積載重量	フロントバスケット	3kg（荷物のみ積載可能）
	リヤキャリア	27kgまで ※バスケットを装着する場合、バスケットの重量と荷物の重量の合計が27kg以下となる範囲内でご使用ください。



● 荷物の大きさ

大きさの限度	フロントバスケット	バスケット内に収まる大きさまで	
	リヤキャリア	幅	リヤキャリアの左右それぞれ10cmまで
		長さ	リヤキャリアの後端から10cmまで
		高さ	リヤキャリア積載面から30cmまで

荷物の積載

チャイルドシートについて

● リヤチャイルドシート

オプションのリヤキャリアのクラス	MAX27kg表示 最大積載重量：27kg
チャイルドシートの取り付け可否	○（装着可） ※体重：22kg以下、身長：115cm以下のお子様用のチャイルドシートが取り付け可能。但し、チャイルドシートとお子様の重量の合計が27kg以下の範囲でご使用できます。

⚠ 注意

- チャイルドシートにより適正使用条件は異なりますので、取り付けるチャイルドシートの取扱説明書を必ずご確認ください。
- この自転車に同乗できるお子様は1名までです。

⚠ 警告

- 大きな容量のリヤキャリアに取り替えても、自転車の積載条件は表記のとおりです。表記条件を超える、荷物を積載したりお子様を同乗させると、走行安定性が損なわれ、転倒・事故を起こす恐れがあります。表記の内容を超えないでください。
- 当社推奨のオプション品を必ずご使用ください。

チャイルドシートについて

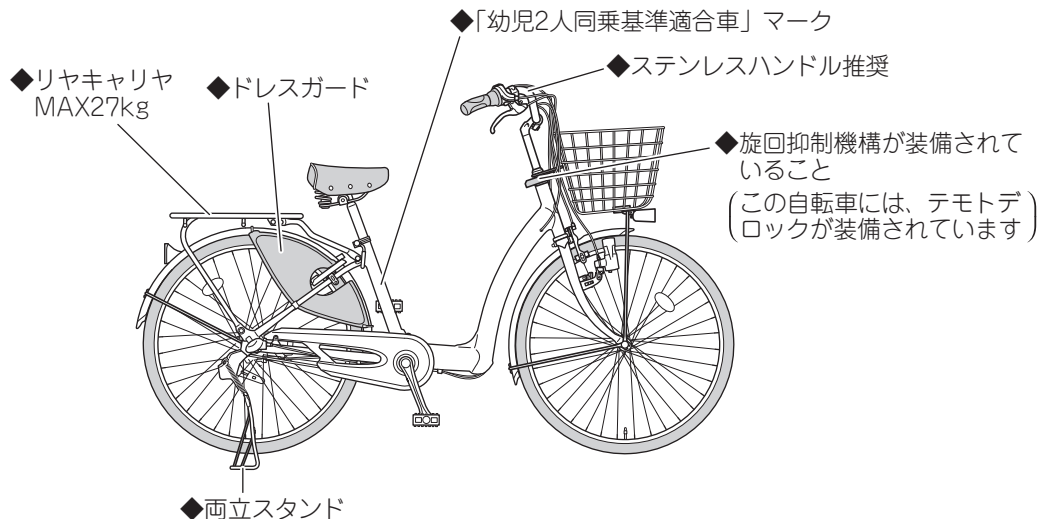
チャイルドシート取り付けの条件

幼児2人を同乗させる場合は、「幼児2人同乗基準適合車」マークが貼られた自転車に、弊社指定のチャイルドシートを装着していただくことが、条件となっています。

1

自転車

- 両足スタンドが装備されていること。
(乗せ降ろし時の安定のため)
- ドレスガードが装着されていること。
(車輪への巻き込み防止のため)
- 幼児2人を同乗される場合は「BAAマーク」の下に、「幼児2人同乗基準適合車」マークが車体に貼られていること。
(この自転車には「幼児2人同乗基準適合車」マークが貼られています。)



* チャイルドシートとお子様の重量の合計が27kg以下までご使用できます。

チャイルドシートについて

チャイルドシート取り付けの条件(つづき)

2

チャイルドシートについて

電動アシスト自転車に取り付け可能なチャイルドシートについては以下のとおりです。

	取り付け可能なチャイルドシート	ご使用できるお子様の目安
フロント用	自転車に標準装備	年齢：1～4歳未満 身長：100cmまで 体重：15kgまで
リヤ用	品番：A551803 略号：RCS-BIK4	年齢：2～6歳未満 身長：70～115cmまで 体重：8～22kgまで

警 告

- 幼児2人同乗をする場合は、必ず上表の弊社指定のチャイルドシートを装着してください。指定外のチャイルドシートでは、「幼児2人同乗基準」が適合しなくなります。また装着できない場合があります。
- チャイルドシートは必ずお買い上げいただいた販売店で取り付けいただくようお願いします。取り付けが不完全であると使用中に外れたり、こわれるおそれがあります。

チャイルドシートについて

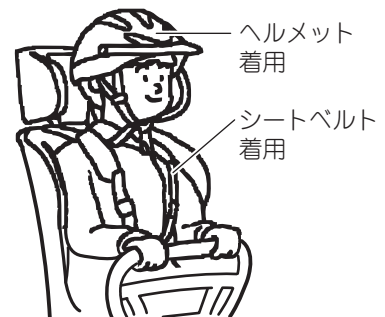
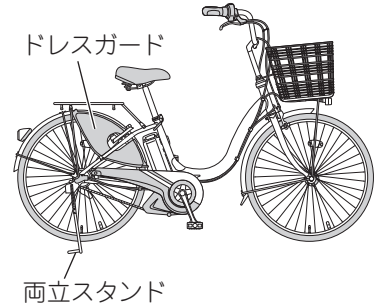
チャイルドシート（別売）*をご使用になる時は、次の点にご注意ください。

※チャイルドシートは車体専用設計になっております。装着する際は販売店にご相談ください。

⚠ 警告

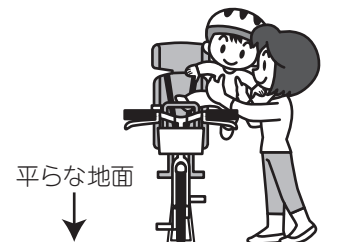
取り付けの前に下記条件を満たしているかご確認ください。

- 両立スタンドが装備されていること。（乗せ降ろし時の安定のため）
- リヤチャイルドシートを使用する時はドレスガードが装着されていること。（車輪への巻き込み防止のため）
- チャイルドシートが確実に自転車に固定され、破損していないことを確認してから使用してください。
- 不意の衝突や転倒の衝撃からお子様を守るため、同乗させるお子様には必ず自転車用の幼児用ヘルメットを着用させてください。
- お子様を同乗させる場合、車輪などの可動部に触れさせないでください。車輪に巻き込まれ、けがをするおそれがあります。
- チャイルドシートは、適正な取り付けのため、自転車販売店で取り付けてください。
- チャイルドシートの取扱説明書をよく読んでご使用ください。
- チャイルドシートを装着し、お子様を同乗すると、車体にふらつきが出てハンドルをとられやすくなるため、自転車に乗りなれてからの同乗をおすすめします。



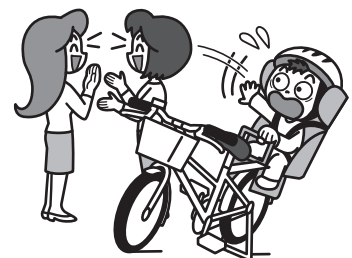
❗ 強制

- シートベルトを着用して、お子様がチャイルドシートから落ちないようにしてください。
- お子様の乗せ降ろしは地面が平らな場所で行いましょう。
- お子様には靴をはかせてチャイルドシートに乗せましょう。



⊘ 禁止

- お子様を乗せた自転車が倒れると、お子様が地面にぶつかり、けがの危険がありますので、決してお子様を乗せたまま駐車したり、自転車から離れないでください。
- 前後に2人のお子様を乗せることは3人乗りとなり、道路交通法で禁止されています。非常に不安定になりますので3人乗りはしないでください。



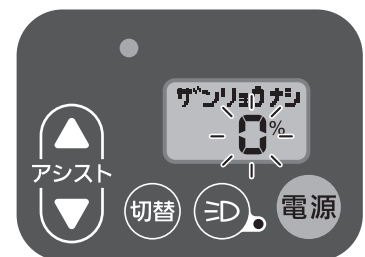
アシストが作動しない環境

こんなときは電動アシストシステムは作動しません。

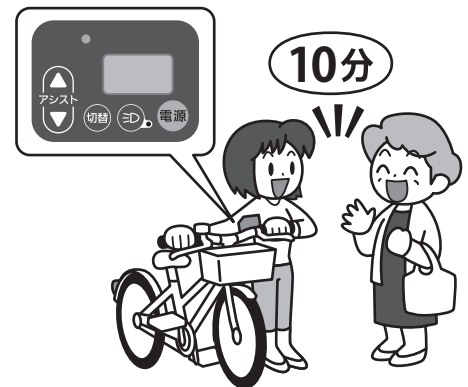
- 走行速度が時速24km/h以上の場合
- ペダルをこいでいないとき



- バッテリー残量がなくなったとき
(メインスイッチ液晶表示部に“ザンリョウナシ”と表示され、残量表示の数値が早点減します。)



- メインスイッチの電源を入れても、自転車を停車した状態が10分以上継続したとき。【自動電源オフ機能】
※ただし、自転車が停止した状態であっても、メインスイッチの操作をしていれば電源は切れません。
※自動電源オフ機能が作動した後でもメインスイッチの電源ボタンを押すと、再び電源が入ります。



駐輪のしかた

1

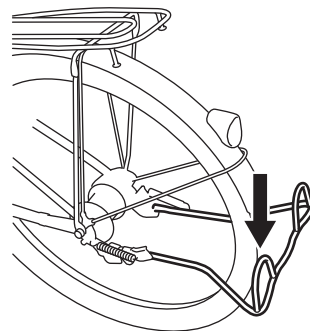
自転車を停車させます。

自転車が完全に停止してから、ブレーキを握ったままゆっくりと降車し、平坦で安定のよい場所に自転車を停車させます。

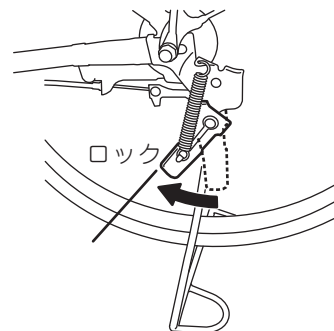
サドルまたはリヤキャリアをもってスタンドを立て、ロックをかけます。

スタンドの立て方

①両手で自転車を支え、足で矢印の部分を踏むようにスタンドを立てます。



②スタンドロックをかけます。



⚠ 警告

- 駐輪するときは、平坦で硬い路面に駐輪してください。また、駐輪後に自転車から離れるときは、自転車が安定して動かないことを確認してください。
- 傾いた路面や、砂利などの柔らかな路面に駐輪すると、自転車が動き出したり、転倒したりして事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 走行直後のブレーキドラム部に手を触れないでください。ブレーキを頻繁に使用した場合、ドラム部が高温になることがあります。
- スタンドを立てたら、必ずロックレバーがかかっていることを確認してください。

2

メインスイッチの電源を切ります。

メインスイッチの電源ボタンを押して、電源を切ります。

駐輪のしかた

3

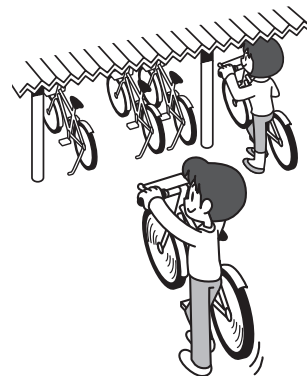
後輪錠を必ずかけるようにしましょう。

駐輪時には、盗難を防ぐために必ず後輪錠をかけるようにしましょう。

要 点

駐輪するときは必ず決められた場所へ

- 駐輪するときは、歩行者、自転車、自動車の迷惑にならない場所を選びましょう。
- 駐輪禁止の場所には停めてはいけません。
- 駐輪時は盗難を防ぐため、必ず後輪錠をかける習慣をつけましょう。
- 後輪錠の予備キーは、大切に保管してください。



駐輪するときはメインスイッチの電源を切ってください

- メインスイッチを切り忘れると、バッテリーの放電を早めることになります。次に乗車するときにバッテリー残量が不足して電動アシストシステムが作動しない場合があります。

お手入れのしかた

各部のお手入れ

⚠ 注意

電動アシスト自転車は日常防水に対応していますが、スチームや水道ホースによる洗車など直接水圧がかかる洗車方法は、電動アシストシステム部やバッテリー部の隙間から内部構造へ浸水し故障の原因となるので避けてください。もし、電動アシストシステム機構が水に浸かった場合は、購入したお店で点検を受けてください。



● 金属部のお手入れ

金属部（スポークなど）は、先に防錆剤を含ませた状態の布でふきます。

⚠ 警告

お手入れの際に、防錆剤やワックスなどの油脂類をブレーキ制動面やタイヤ、リムなどに付着させないように注意してください。油脂類が付着するとブレーキの制動力が低下し、事故につながる危険があります。

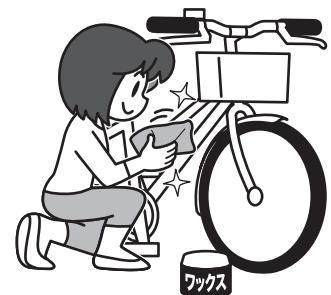


● フレームなどの金属塗装部のお手入れ

金属部分の塗装面は、汚れをきれいに落としてから乾いたタオルにワックスを少量なじませてからみがきます。油分の付着は光沢感をそこなうため、塗装部にはつけないよう注意してください。

⚠ 注意

お手入れの際、ゴム類（タイヤ・ブレーキシューなど）に、絶対にワックスを付着させないでください。ワックスがタイヤ等のゴム類に付着するとヒビ割れの原因となり危険です。

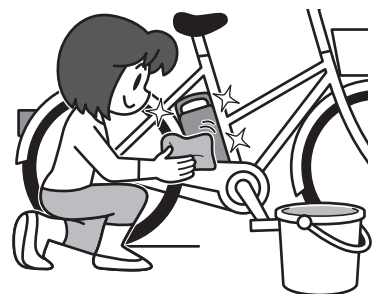


● バッテリー部のお手入れ

バッテリーケースは、水を固く絞ったタオルで汚れをふき取ります。ホース等から放水した水を直接かけないでください。

⚠ 注意

お手入れの際、故障の原因となるため、金属の接点をヤスリで研磨したり、針金などを用いて掃除しないでください。



お手入れのしかた

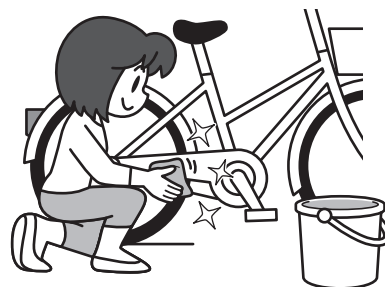
各部のお手入れ(つづき)

● 樹脂カバー類のお手入れ

カバー等の樹脂部分の汚れは、水を固く絞ったタオルなどでしっかりとふき取ります。

⚠ 注意

お手入れの際、ガソリン、灯油、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などはヒビ割れなどの原因になるので付着させないでください。

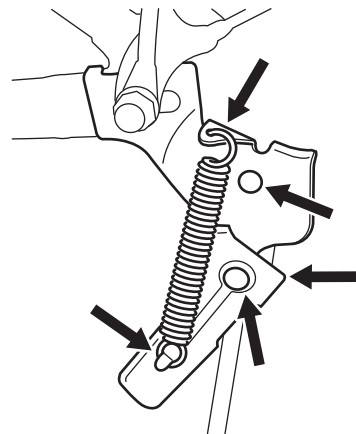


● スタンドのお手入れ

矢印の部分に定期的に注油を行い、スタンドのロック動作を確認するようにしてください。

⚠ 注意

泥やほこりが付着したり、油が切れてきますと、自動ロックなどの動作が鈍くなることがあります。



お手入れのしかた

お手入れのしかた

⚠ 警告

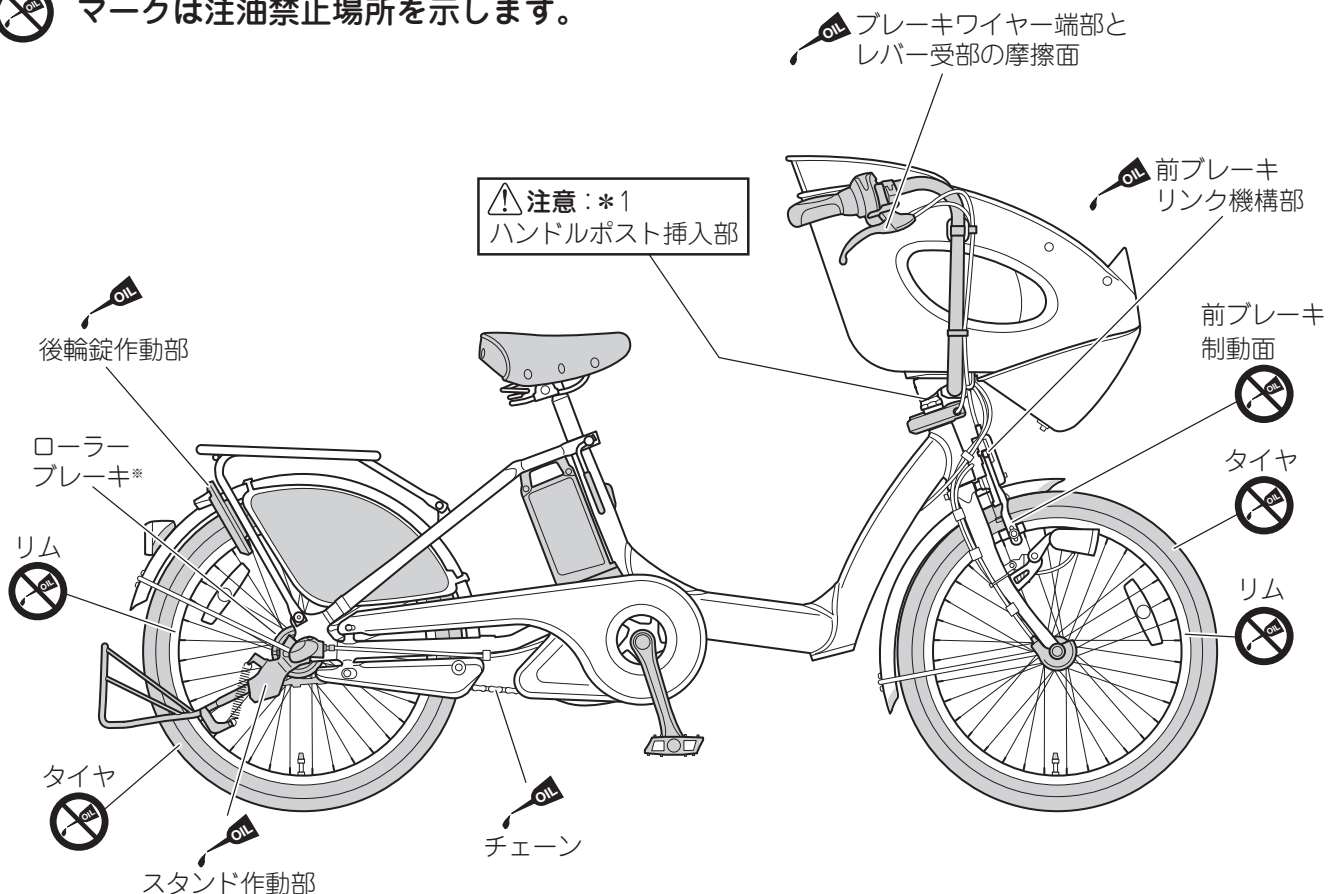
ブレーキの制動面やタイヤ、リムには注油しないでください。ブレーキが効かなくなり、衝突・けがのおそれがあります。

⚠ 注意

- 注油は決められた場所に少量を注油します。多すぎると、ホコリを付着させ、故障の原因になります。
- 注油は自転車用油を使用してください。食用油は使用しないでください。

 マークは注油場所を示します。

 マークは注油禁止場所を示します。



※ローラーブレーキは販売店で専用グリスの補給が必要です。(P86)

⚠ 注意： ● 樹脂部品や塗装部品に、シンナー・ベンジンなどの有機溶剤やガソリンなどの石油類薬品、酸性・アルカリ性の洗剤などは使用しないでください。変形、変色や、ひび割れ、塗装がはがれることがあります。

*1 ハンドルポスト挿入部には、潤滑剤（浸透性の油）を注油しないでください。固定力が低下してハンドル操作できなくなるおそれがあります。但し錆びによる固着防止のために、挿入部にグリスを薄く塗布するのは可能です。

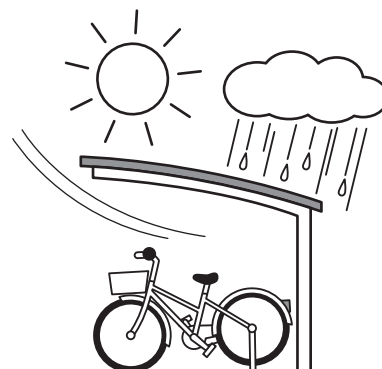
保管のしかた

日々の保管のしかた

- 保管に適した場所を選びましょう。
 - ・ 地面が平らで、安定したところ
 - ・ 湿気が少なく、風通しの良いところ
 - ・ 直射日光を避け、雨ざらしにならないところ
- 保管時はメインスイッチの電源を切りましょう。

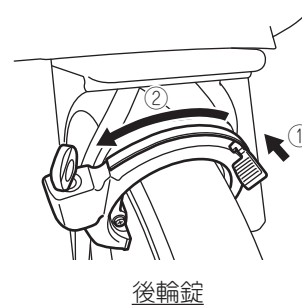
⚠ 注意

メインスイッチの電源を切り忘れると、バッテリー放電が早まります。
その場合、次回乗車時に電池残量が不足し電動アシストシステムが作動できなくなるおそれがあります。



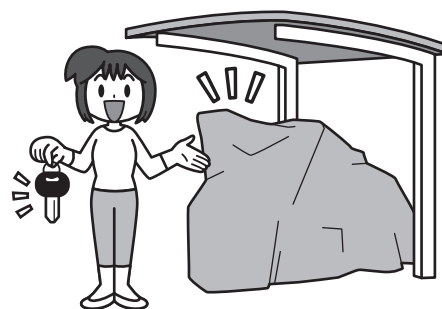
- 後輪錠をかけましょう。

保管するときは、いたずらや盗難を予防するために必ず後輪錠をかけましょう。(P40)



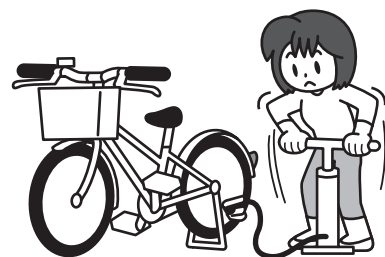
- サイクルカバーをかけましょう。

保管時は、サイクルカバーをかけてほこりなどの異物の付着や水ぬれを防ぎましょう。



- タイヤに十分な空気を入れましょう。

保管時は、タイヤがいたむのを避けるために適切な空気圧にしましょう。



保管のしかた

長期間保管するときのバッテリーの取り扱い

1か月以上の長期間電動アシスト自転車に乗車しない場合、バッテリーの保管は以下の点に注意してください。

- バッテリーは車両から取り外し、屋内の涼しく（15～25℃）湿気のない場所で保管してください。

⚠ 注意

バッテリーを車両から取り外しておく場合、車両側バッテリー装着部へのほこりなど異物の付着や、水滴付着による金属端子部の錆防止のため、車両にサイクルカバー（別売り）をかけてください。

- 時々（1か月に1回）、バッテリーの残量を確認してください。
バッテリー残量ランプが1灯点滅の場合、一度充電（30分程）してバッテリー残量の著しい低下を防ぎましょう。

要点

- バッテリー残量が「満充電」または「空」の状態で放置すると、バッテリー早期消耗の原因になります。
- バッテリーは自己放電するので、保管時も少しずつバッテリー残量が低下します。

長期間保管して再使用するとき

1か月以上の長期間保管した後は、必ず使用前日に充電をしてから使用しましょう。（通常より充電に時間がかかる場合があります。）



また6か月以上の保管期間があった場合は、販売店で点検・整備（有料）を受けてから使用してください。

自転車を廃棄するとき

- 自転車を廃棄するときは、廃棄する地区のゴミ分別や回収ルールを守って廃棄してください。
- バッテリーはリサイクル可能な資源です。使用済みバッテリーは販売店にお持ちください。回収しリサイクルします。

もしもこんなときは

ペダルが重い・アシストしない

症状および確認内容	対処方法	ページ
メインスイッチの電源は入っていますか？	電源を入れてください。	37
バッテリーは確実に取り付けられていますか？	充電済のバッテリーを確実に取り付けてください。	27
バッテリー残量ランプの1灯目が速い点滅(0.5秒間隔)をしていませんか？	バッテリーの容量が0(ゼロ)です。充電をしてください。	35
タイヤの空気圧が低くありませんか？	自転車用空気入れを使用し、適切な空気圧まで空気を入れてください。	31
メインスイッチの電源を入れてから、10分以上自転車が停止した状態が続いていませんか？	自動電源オフ機能が作動しました。再度、電源を入れなおしてください。	40
メインスイッチの液晶表示部に“ゲンテンエラー E1”が表示される。	ペダルを踏みながら、電源ボタンを押しませんでしたか？ ⇒ペダルを踏まないで、電源ボタンを押し、電源をいれてください。	—
メインスイッチの液晶表示部に“  センサエラー E2”が表示される。	スピード(車速)センサーが正しく信号を検出できない状態が続くと表示します。 しばらく走行を続けるか、電源を入れなおしてください。 同じ症状が出る場合は、ご使用を止め、販売店で点検をお受けください。 ※スタンドを立てた状態でペダルをこぐと、E2が表示される場合があります。電源を入れ直すか、実際に走行すると元に戻ります。	—
メインスイッチの液晶表示部に“ツウシンエラー E5”が表示される。	メインスイッチと駆動ユニットの通信異常です。 ⇒販売店に修理をご依頼ください。	—
メインスイッチの液晶表示部に“ユニットコショウ E9”が表示される。	駆動ユニットの異常です。 ⇒販売店に修理をご依頼ください。	—
メインスイッチの液晶表示部下段に残量を表示するが、上段に“  (M2・B1・B2) + オーバーヒート”が表示される。	駆動ユニットもしくはバッテリーが過負荷のため、保護モードに入っています。 ⇒変速を「1」にするなどを行い、軽負荷で走行してください。しばらくすると正常に戻ります。 ※(炎天下での乗車など)保護モードに入るとアシスト力が制限されます。そのまま走行していただいても問題ありません。表示が戻らない場合は販売店にご相談ください。	—

もしもこんなときは

ペダルが重い・アシストしない(つづき)

症状および確認内容	対処方法	ページ
メインスイッチの液晶表示部に“アシストナシ”が表示される。	故障ではありません。電源を入れずに、手動でライトを点灯した場合の表示となります。 ⇒電源ボタンを押して、電源を入れてください。	64
走行中にメインスイッチの表示が全て消灯した。	電動アシストシステム内部のトラブルが考えられます。ご使用を止め、販売店で点検をお受けください。	—
電源ボタンを押しても電源が入らない。		

走行距離が短い

症状および確認内容	対処方法	ページ
バッテリーは満充電されていますか？	満充電になるまで充電してください。 バッテリーが充分充電できていないと、走行距離が短くなります。ただし、バッテリーが満充電されていてもバッテリー寿命によってバッテリー容量が低下している場合は、走行距離が短くなります。	35
タイヤの空気圧は適正ですか？	適正な空気圧になるようにタイヤに空気を充填してください。 タイヤの空気が減っていると、走行抵抗が大きくなり、走行距離が短くなります。	31
重い変速位置ばかりの使用や、坂道での連続使用をしていませんか？	平地、坂道等の走行条件に合った走行モードと変速シフト位置でご利用ください。 高負荷運転となり、バッテリー消費が早くなります。	36、61
温度が高いところや低いところで使用していませんか？	気温が適温(15～25℃)になると回復します。真夏や真冬はバッテリー性能が落ちることがあります。 特に冬場は使用される直前まで、バッテリーを室内などの温かい場所に保管されることをお勧めします。	23
車輪はスムーズに回りますか？	乗車前点検を実施し、調整が必要な場合は、お買い上げ販売店にご相談ください。 前後ブレーキが掛かった状態など、車輪がスムーズに回らない場合は、走行抵抗が大きくなり、走行距離が短くなります。	30～33
信号や交差点等、発進、停止を多く繰り返していませんか？	発進時には大きな電力を使用するため、バッテリー消費が早くなります。	—

もしもこんなときは

走行距離が短い(つづき)

症状および確認内容	対処方法	ページ
バッテリーが消耗していませんか？	一充電あたりの走行距離が著しく短くなり、回復する兆しがない、また上記に該当しない場合は、バッテリー交換時期といえます。 バッテリーを交換してください。	23 ～ 24

充電できない

症状・確認項目	対処方法	ページ
電源プラグはコンセントにしっかり差し込まれていますか？ また、バッテリーと充電器の接続は確実ですか？	一旦各接続部をはずし、再度接続して充電してください。	28
バッテリー残量ランプ(バッテリー側)は点灯していますか？	一旦各接続部をはずして、再度接続しなおし充電してください。 ※残量表示ボタンを押した場合、LEDランプが流れるように点滅するときはバッテリーの故障が考えられます。 ⇒販売店にご相談ください。	28
充電中、バッテリーの残量表示ランプの1、3、5番目のLEDが点滅する。	バッテリー内の温度が0℃から40℃の範囲外になっています。 ⇒温度が0℃～30℃の場所に移し、約2時間待ってください。	—

異音・異臭あるいは煙がでる

症状・確認項目	対処方法	ページ
電動アシストシステム機構から通常発生しない異音や異臭、煙が発生する。	ただちに使用をやめ、メインスイッチの電源を切り、販売店にご相談ください。	—
充電器から異音や異臭、煙が発生する。	ただちに充電をやめ、コンセントから充電器の電源プラグを外し、販売店にご相談ください。	—

もしもこんなときは



充電器が熱い

症状・確認項目	対処方法	ページ
手で触ることが可能なレベル。	充電器は充電中に約40～60℃になります。この程度の熱の発生は故障ではありません。	—
熱くて手で触ることが不可能。	ただちに充電をやめ、コンセントから充電器の電源プラグを外し、販売店にご相談ください。	—

バッテリー残量ランプが表示しない



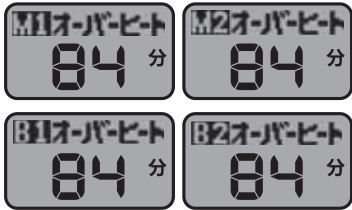

症状・確認項目	対処方法	ページ
バッテリーのバッテリー残量表示ボタンを押してもバッテリー残量ランプが点灯しない。	新品もしくは長期間保管されたバッテリーは、バッテリーのバッテリー残量表示ボタンを押しても表示しません。充電すると表示します。	—
充電完了後、バッテリーのバッテリー残量表示ボタンを押しても5灯全てのバッテリー残量ランプが点灯しない。	一旦各接続部をはずし、再度接続して充電してください。 ⇒充電中に、コンセントから電源プラグが、または充電器からバッテリーが外れた可能性があります。	28

メインスイッチが異常表示・異常点滅する

症状・確認項目	対処方法	ページ
 液晶表示部に“ゲンテンエラー E1”が表示される	ペダルを踏みながら、電源ボタンを押しませんでしたか？ ⇒ペダルを踏まないで、電源ボタンを押し、電源を入れてください。	—
 液晶表示部に“センサエラー E2”が表示される	スピード（車速）センサーが正しく信号を検出できない状態が続くと表示します。 しばらく走行を続けるか、電源を入れなおしてください。 同じ症状が出る場合は、ご使用を止め、販売店で点検をお受けください。 ※スタンドを立てた状態でペダルをこぐと、E2が表示される場合があります。電源を入れ直すか、実際に走行すると元に戻ります。	—

もしもこんなときは

メインスイッチが異常表示・異常点滅する(つづき)

症状・確認項目	対処方法	ページ
 <p>液晶表示部に“ツウシンエラー E5”が表示される。</p>	<p>メインスイッチと駆動ユニット間の通信異常です。</p> <p>⇒販売店に修理をご依頼ください。</p>	—
 <p>液晶表示部に“ユニットコショウ E9”が表示される</p>	<p>駆動ユニットの異常です。</p> <p>⇒販売店に修理をご依頼ください。</p>	—
 <p>手元スイッチの液晶表示部下段に残量を表示するが、上段に“M1 (M2・B1・B2) + オーバーヒート”が表示される。</p>	<p>駆動ユニットもしくはバッテリーが過負荷のため、保護モードに入っています。</p> <p>⇒変速を「1」にするなどを行い、軽負荷で走行してください。しばらくすると正常に戻ります。</p> <p>※(炎天下での乗車など)保護モードに入るとアシスト力が制限されます。そのまま走行していただいても問題ありません。表示が戻らない場合は販売店にご相談ください。</p>	—
 <p>メインスイッチの液晶表示部上段に“B ツウシンエラー”を表示し、下段に“---”を表示する。</p>	<p>バッテリーと駆動ユニットの通信異常です。</p> <p>バッテリーを装着しなおし電源を入れなおしてください。同じ症状が出る場合は、ご使用を止め販売店で点検をお受けください。</p>	—

もしもこんなときは

オートライトシステムが作動しない

症状および確認内容	対処方法	ページ
メインスイッチの電源は入っていますか？	【電源ボタン】を押して電源を入れてください。	63
照度センサーが汚れていませんか？	照度センサー部が汚れていると、周囲の明るさ（照度）を検出しにくくなります。照度センサーについた汚れをふき取ってください。	
照度センサーをカバーなどで覆っていませんか？	照度センサーが周囲の明るさ（照度）を検出できないと、オートライトシステムが正常に作動しません。照度センサーを覆っているもの（カバーなど）を取り除いてください。	
【ライトボタン】を押しましたか？	故障ではありません。前照灯を手動操作で点灯または消灯させるために【ライトボタン】を操作した場合、オートライトシステムは無効になります。メインスイッチの電源を切り、再度電源を入れることでオートライトシステムを有効にすることができます。	

スマートコントロールブレーキ（前ブレーキ）

症状および確認内容	対処方法	ページ
●ブレーキの効きが異常に弱すぎる。		
ブレーキシューが磨耗している。	ブレーキシューの山の残りが1mm以下になっているたら、販売店でシューの交換を行ってください。	—
ワイヤーに異物が引っかかり、屈折している。	異物を取り除いて、ワイヤーの曲がりを取ってください。	—
泥の付着等によりブレーキ本体の作動異常が発生している。	販売店にご相談ください。	—
ワイヤーの作動抵抗が大きい。	ワイヤーの錆や汚れが原因と考えられます。販売店でブレーキワイヤーを交換してください。	—
●ブレーキレバーを操作したときに、レバーが完全に戻らない。		
ワイヤーに異物が引っかかり、屈折している。	異物を取り除いて、ワイヤーの曲がりを取ってください。	—
泥等の付着によりブレーキ本体の作動異常が発生している。	販売店にご相談ください。	—
ワイヤーの作動抵抗が大きい。	ワイヤーの錆や汚れが原因と考えられます。販売店でブレーキワイヤーを交換してください。	—

もしもこんなときは

ローラーブレーキ(後ブレーキ)

症状および確認内容	対処方法	ページ
ブレーキの効きが異常に強すぎる。(急激に効く)	この状態は内部のグリス切れが考えられますので、販売店でローラーブレーキ専用グリスをグリス穴から補給してください。	—
ブレーキの効きが異常に弱すぎる。		
ブレーキをかけたとき、キーキー不快な音鳴りがする。		

ソーラーテールライトが点滅しない

症状および確認内容	対処方法	ページ
太陽光を十分に当てても自動点滅しなくなった。	ソーラーテール内蔵の充電電池の寿命が考えられます。この充電電池は消耗品です。 この充電電池はソーラーテール専用品のため、電気店では入手できません。お買い求めの自転車販売店にご相談ください。	66

後輪錠

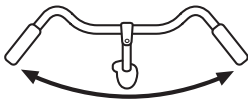
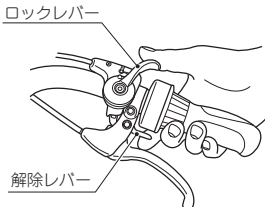
症状および確認内容	対処方法	ページ
後輪錠開錠のとき、後輪錠のツマミが戻らない。		
カンヌキがスポークやタイヤバルブに当たって、戻らない。	カンヌキがスポークやタイヤバルブから離れるように、後車輪をゆっくり回転させ、ツマミが戻ることを確認してください。	—
油がきれて動きが悪くなった。	カンヌキスライド部に注油して、ツマミが戻ることを確認してください。	—
キー操作がされていない。	キーを正しく差込み時計方向に回して、ツマミが戻ることを確認してください。	—
内部・連動機構の異常。	販売店にご相談ください。	—
後輪錠施錠のとき、施錠できない。		
カンヌキがスポークやタイヤバルブに当たり、施錠できない。	カンヌキがスポークやタイヤバルブから離れるように、後車輪をゆっくり回転させ、施錠できることを確認してください。	—
セーフティボタンを押していないためツマミを操作できない。	セーフティボタンを押したまま、ツマミを操作して施錠できることを確認してください。	—
内部・連動機構の異常。	販売店にご相談ください。	—

もしもこんなときは

テモトデロック

⚠ 警告

解除しても、ハンドル操作に音や引っかかりなどの異常があって直らない場合には、乗車せずに販売店にご相談ください。走行中ハンドル操作ができなくなり、転倒や事故につながるおそれがあります。

状 症		チェック	対処方法
操作レバーセット解除時	ハンドルの異常。 (音がする、引っかかるなど) 	連動ワイヤに異物が引っかかり、連動ワイヤが折れ曲がっている。	異物を取り除いて、連動ワイヤの曲がりをとってから、再度ハンドルの操作を確認してください。
		解除レバーが引き上げ切れていない。(ロックレバーが上側でない)	再度解除レバーを引き上げて、ロックレバーが上側に戻ることを確認後、ハンドル操作を確認してください。
		内部・連動機構の異常。	乗車せずに販売店にご相談ください。
	解除レバーを押しても、ロックレバーが上側へもどらない。 (表示がロック(赤)表示のまま)	内部・連動機構の異常。 レバーが別部品に接触して動かない。	販売店にご相談ください。
操作レバーセットロック時	ハンドルがロック(半固定)されない。 (表示：ロック(赤) / ロックレバー：下側固定)	ハンドルがロック位置より回転方向にずれているため、ロック(半固定)できない。 内部・連動機構の異常。	ハンドルを少し回転させて、ロック(半固定)されるかを確認してください。 販売店にご相談ください。
	ロックレバーが下がらない。 下側に固定されない。 (表示：解除(青) / ロックレバー：上側)	解除レバーを「引き上げながら」の操作をしていないため。(安全機構を解除する)	解除レバーを引き上げながら、ロックレバーを操作して、ロック(半固定)ができるかを確認してください。
		ロックレバー操作終了後も、解除レバーを引き上げ操作しているため。 	以下のいずれかの操作方法をして、ロックができるかを確認してください。 A：解除レバーを引き上げ、ロックレバーが動き出したら、解除レバーの引き上げ操作をやめて、ロックレバー操作を行う。 B：解除レバーを引き上げ、ロックレバーが下側に突き当たったら、解除レバー操作止め、その後、ロックレバーから指を放す。
		内部・連動機構の異常。	販売店にご相談ください。
		レバーが別部品に接触して動かない。	
	ハンドル固定力の低下	内部・連動機構の異常。	販売店にご相談ください。

定期点検／普通自転車点検整備済みTSマーク

定期点検

点検・整備は販売店で、自転車安全整備士・自転車技士（自転車組立整備士）、またはそれと同等の技能を有する者により受けてください。

●初回（2ヶ月または100km走行後）点検

お買い上げいただいた電動アシスト自転車は工場で厳密な検査を施した後に出荷されていますが、まれに使用後1～2ヶ月の間に、ボルトなどにゆるみが生じることがあります。

その為、この期間内に電動アシスト自転車をお買い上げいただいた販売店にて点検・整備を受けるようにしてください（有料）。

販売店での点検・整備の際は、保証書／点検・整備の記録をお持ちください。

また、使用状況などにより部品の交換が必要な場合は、有料となることがありますので、あらかじめご相談ください。

●定期点検

いつまでも大切にお乗りいただくために、異常を感じた場合、またはお買い上げいただいてから6ヶ月、12ヶ月、その後は1年経過する毎に販売店で定期点検を受けましょう（有料）。

消耗した部品や、異常箇所をそのままにしてお乗りになると大変危険です。

定期点検をすることで、電動アシスト自転車の優れた性能をより長い間引きだしていただけます。

また、定期点検を実施していない場合には保証の適用を受けられないことがありますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 警告

- ブレーキは最も重要な機構のひとつです。乗車前の点検に加え、販売店で定期的に点検を受けるようにしてください。
- ブレーキワイヤは消耗品です。異常がなくても2年に1度は交換してください。

普通自転車点検整備済みTSマークについて（新車には貼付されていません）

自転車安全整備店でTSマークの貼り付けを依頼して、点検・整備を受け、基準に適合した安全な自転車にこのマークを貼ることができます。（有償です。）

このマークには、傷害保険と賠償責任保険が付帯されており、保険の有効期間中であれば、万一の事故の際に利用することができます。

詳しくは、お買い求めの販売店、または弊社お客様相談室までご相談ください。



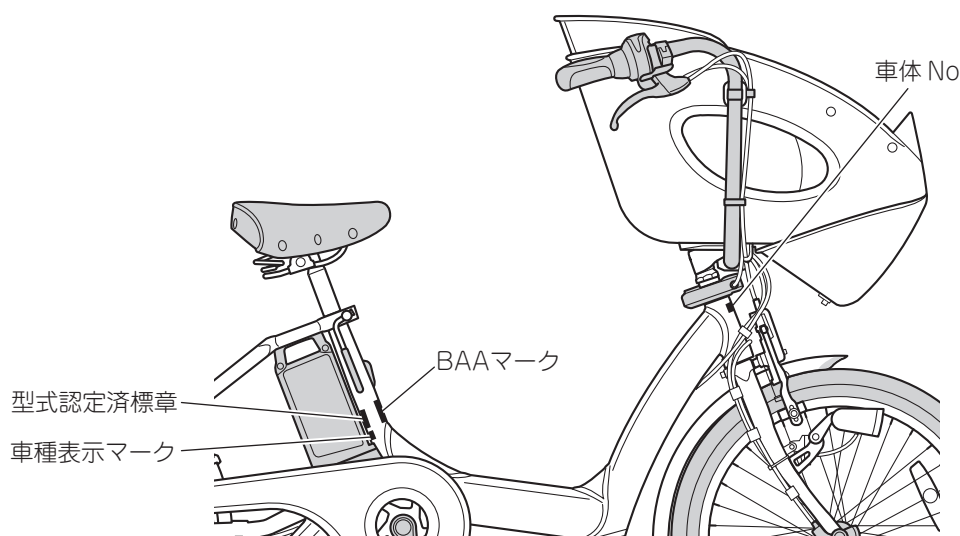
保証制度／基準適合標章(TSマーク)

保証制度

ご購入いただいた電動アシスト自転車に採用される純正部品に、不具合(材質または製造上の)が発生した際は、保証書(ロビンフッド手帳)に記載された条件に沿って、無料で対象の部品交換または補修による修理を行います。詳細は保証書をご覧ください。

注)但し、消耗品は除きます。

マークの貼付・表示位置




※型式認定済標章はバッテリーを外さないと読めません。

※車体No(番号)は、防犯登録する時に使います。

型式認定済標章(新車に貼付してあるTSマーク)

このマークは、道路交通法に定められた規定に適合し、国家公安委員会の認定を受け、型式認定を取得した車両にのみ表示が許されます。このTSマークが貼付された電動アシスト自転車は、安心してご使用いただけます。

注)このTSマークには、保険は付帯しません。

ブリヂストンサイクル株式会社	
	
駆動補助機付自転車 型式認定番号	交
普通自転車 型式認定番号	交
防犯登録時は、ヘッドパイプ上側の 打刻番号を使用してください。	

BAAマーク

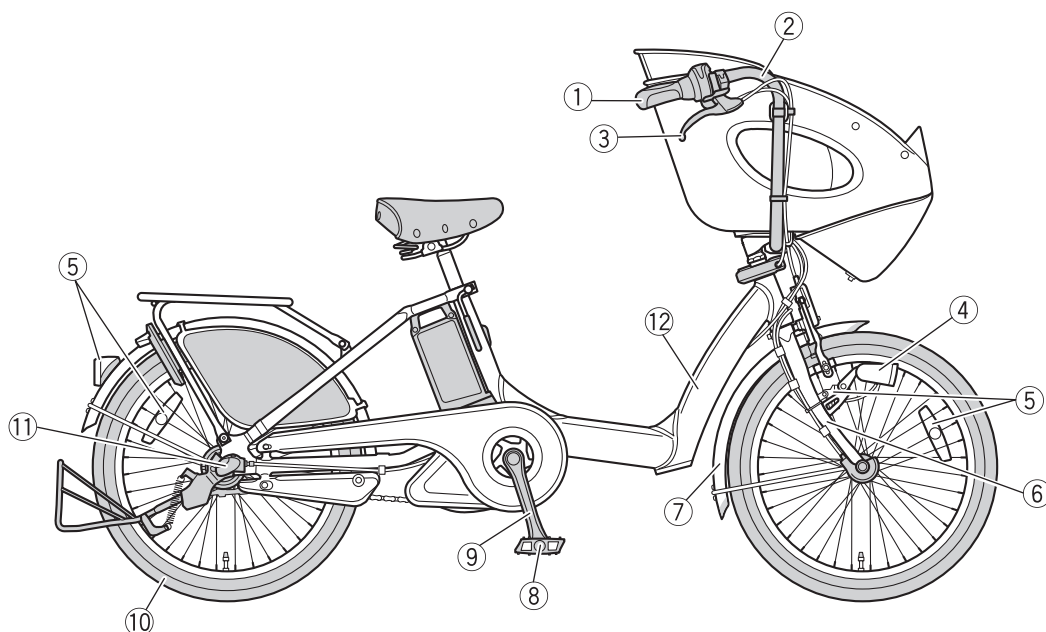
電動アシスト自転車には「BAAマーク」が貼付されています。

BAAマーク(自転車協会認証)は、「安全で長持ちし、環境に優しい自転車」を目標に、社団法人自転車協会が制定した自転車安全基準に基づく型式検査に合格した自転車にのみ貼付されます。BAAマークが貼付された自転車で、もし製造上の欠陥に起因する事故が起きた場合、製造業者または輸入事業者がその責任を負い、事故の補償をいたします。

注) 社団法人自転車協会が直接補償するものではありません。



自転車安全基準の主な内容



- ① にぎり
水濡れ時でも、にぎりの回転または抜けが発生しないか離脱力を確認します。
- ② ハンドル
駐輪時の転倒でハンドルが破損しないかを、500mmの高さから質量10kgのおもりをハンドルに落下させ確認します。
- ③ ブレーキ
ブレーキワイヤを1.5kNで引っ張った時切断しないか、15kgのおもりを10,000回上下させ異常が発生しないかを確認します。

④ 前照灯

夜間の無灯火走行を防止するために、自動または手元で容易に点灯操作ができる前照灯を備えているか、また適切な明るさが得られているかを確認します。

⑤ リフレックスリフレクター

夜間走行時の安全の為、フロントリフレクター、リヤリフレクター、ペダルリフレクターおよびサイドリフレクター(側面2箇所)を備えていること、またフロントリフレクターの夜間100m前方からの反射光視認性を確認します。

⑥ 前ホーク

前ホークの強度は±440N(非鉄系は±600N)の荷重を100,000回加えて確認します。

⑦ どろよけ

前輪用どろよけは、タイヤ接触時に巻き込みが発生しないこと(ドイツDIN規格)を確認します。

⑧ ペダル

樹脂製ペダルの強度はDIN規格(ドイツ)に沿って、ペダル体引抜試験と衝撃試験で確認します。

⑨ ギヤクランク

ギヤクランクの強度は、1500Nの静荷重試験と1400Nの荷重を合計75,000回加える動的試験で確認します。

⑩ 車輪

車輪の品質と強度は、縦振れと横振れが1.5mm以内であること、車輪の側方に300Nの荷重を加える静荷重試験、タイヤのリム外れ試験、ハブの回転摩耗試験で確認します。

⑪ 制動性能

晴天時・雨天時ともに安全な停止・減速を実現するため、DIN規格(ドイツ)に沿って制動性能を確認します。

⑫ フレーム

フレームの強度は、JIS規格の耐振性試験とDIN規格(ドイツ)の動的試験で確認します。

○ ねじ

低品質のネジを使わないよう、ネジ強度を確認します。

* 1N(ニュートン)=約0.102kgの力を意味します。

* DINは、ドイツ規格協会が制定するドイツ連邦共和国の国家規格です。主要部品の強度や耐久性、制動性能、各種表示などに関する規格が定められています。

防犯登録／盗難補償／保険について

防犯登録について

法律により防犯登録は義務づけられています。かならず実施してください。

● 制度の意義

防犯登録は「自転車の安全利用の促進及び自転車等の駐車対策の総合的推進に関する法律」第12条第3項により自転車を保有する方に義務づけられています。これは、多発する自転車の盗難、さらに盗難自転車が路上に放置された場合など、市民生活に支障を来たす状況を改善することを目的に制定されました。

● 登録のしかた

防犯登録は自転車防犯登録所（例えば、お買い上げの販売店など）にて行うことができます。尚、防犯登録は有料です。

● 自転車が盗難にあった場合

最寄の警察署に盗難届けを出してください。この時、防犯登録ナンバーが必要になります。防犯登録ナンバーが不明の場合、盗難された自転車が見つかりにくくなります。防犯登録カード（お客様控え）は大切に保管してください。

盗難補償について

● 盗難補償を受けるためには、盗難補償書に記載の期日までに次のいずれかの加入手続きが必要です。

- ①弊社ホームページから「オンライン登録」で登録する
- ②ロビンフッド手帳に記載のQRコードから携帯電話で「オンライン登録」する
- ③ロビンフッド手帳のブリヂストンサイクル盗難補償カード（ハガキ）に必要事項を記入の上投函する

※お買い上げ日欄が未記入であったり、不実の内容を記入された場合には盗難補償は受けられません。

※弊社からお客様へ、ブリヂストンサイクル盗難補償カード（ハガキ）受け取り完了のご連絡は差し上げられませんのでご了承ください。

- 上記、加入手続き前に遭われた盗難に関しては、補償が受けられませんのでご注意ください。
- 詳細は盗難補償書をご覧ください。

保険について

- 万が一の自転車での事故に備えて、対人対物賠償保険に加入することをおすすめします。また、自動車保険等の一部保険では、自転車での事故までをカバーしている場合がありますので、現在加入されている保険がある方は、加入されている保険の内容を確認ください。（なお、弊社では保険の取り扱いはありません）

スペアキーについて

スペアキーのご注文は、お買い上げ店にキーNoと車種をご指定の上ご注文ください。

⚠ 注意

- ご注文からスペアキーの納品には10日以上かかる場合があります。
- 部品の生産終了や在庫切れにより、対応できなくなる場合もあります。
- スペアキーは元のキーに対してつまみの形状などが異なる場合があります。
- お客様の自転車の車体Noなどから、キーNoを弊社で調べることはできません。
(弊社には1台ごとのキーNoデータはありません。)
- 紛失する前にキーNoを控えておくことをおすすめします。(裏表紙)
- キーNoがわからないと、スペアキーは注文できません。
- 防犯上の理由からスペアキーの対応ができない場合もあります。
- 自転車のスペアキーは、一般に鍵屋さんでは作れません。

点検・整備の記録

有料

点検・整備項目

V=異常なし A=調整・注油 △=修理 ×=交換 T=締付 C=清掃・その他

	点検項目	初回	6か月	1年	2年	3年	4年	5年
車両本体	車体の長さや幅、フレームと前ホークの外観と取付状態							
	ハンドルの固定、回転とがたつき							
	ブレーキ各部の作動・固定、注油の有無（注油不可の場所は除く）							
	ローラーブレーキの鳴き、振動の有無（1年毎に専用グリスを充てん）							
	ブレーキの効きと各部（シュー、リムなど）の摩耗状態、ブレーキの調整							
	ベルの固定と鳴り具合							
	前照灯の固定と点灯動作							
	前後の車軸の締付とがたつき							
	リムの変形と振れ、スポークの変形・張り具合							
	タイヤの固定、摩耗、損傷、空気圧							
	ペダルとギヤクランクの固定と回転具合							
	フリーホイールの回転と注油の有無							
	チェーンの張りや摩耗・注油の有無							
	変速機の取付と作動							
	ロックキー（後輪錠）の取付状態							
	前後のドロヨケとチェーンケースの取付状態							
	リフレクタ（反射板）の取付と汚れ、損傷（ソーラーテールランプは作動を含む）							
	サドルの取付と位置							
	スタンドの取付と機能							
	キャリアの取付と位置							
	バスケットの取付と位置							
電動アシストシステム機構	電動アシストシステム各部の取付状態と作動							
	配線接続部の外れや損傷							
	モーターやトルクセンサーからの異音							
	カバー等の取付状態							
	充電器の電源コードの異常や損傷							
	メインスイッチとバッテリーのランプ表示							
	バッテリーの取付と固定、バッテリーロックの作動							
	バッテリーの消耗							

■実施年月日	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・
■実施者氏名	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩

製品仕様

諸 元				bikke POLAR e	
				BP0D38	
				20インチ	
寸 法	全 長	1,770mm			
	全 幅	590mm			
	サ ド ル 高	690～840mm			
	軸 間 距 離	1,207mm			
	タ イ ヤ サ イ ズ	前輪：20×1.95 HE 後輪：20×2.125 HE			
車 両 重 量				30.4kg	
性 能	補 助 速 度 範 囲		比例補助	0km/h以上～10km/h未満	
			逡減補助	10km/h以上～24km/h未満	
	1充電あたり	標 準 パ タ ー ン	39km ^{*1}		
	の走行距離	4°登坂連続パターン	13km ^{*1}		
電 動 機	形 式		形式ブラシレスDC式		
	定 格 出 力		250W		
補 助 力 制 御 方 式				踏力比例制御式	
蓄 電 池	品 番		P6430（ブラック）		
	種 類		リチウムイオン電池		
	定 格 電 圧		25.2V		
	定 格 容 量		12.0Ah		
	T y p . 容 量		12.8Ah		
充 電 器	品 番		P6431		
	形 式		スタンド式		
	電 源		AC100V（50Hz-60Hz ）		
	消 費 電 力		約110W		
	充 電 時 間		約4時間30分 ^{*2}		
	充 電 で き る バ ッ テ リ ー		P6430（ブラック）25.2V-12.0Ah（21セル）		
変 速 機 方 式				リヤハブ、内装3段	
駆 動 補 助 装 置 の 種 類 及 び 型 式				チェーン出力方式クランカー体型	
制 動 装 置			前	キャリパーブレーキ	
			後	内拡式ローラーブレーキ	
照 明 装 置 （前 照 灯）				バッテリーランプ	

※1 業界新規定の標準パターンで走行したときの弊社データ

バッテリー新品、気温15～25℃、車載重量65kg(乗員および荷物を合計した重量)、平滑乾燥路面、無風、無点灯状態で、パワーモードで走行。

※2 長期放置したバッテリーを充電した場合、電池の状態により充電時間が延びることがあります。







お買い上げいただいた電動アシスト自転車の記録

●キー No _____

※スペアキーをご注文する時にはキー Noが必要です。お客様が記録しておいてください。

※スペアキーのご注文はお買い上げの販売店へご相談ください。



キー Noはここにあります。

●防犯登録番号 _____

※防犯登録票より転記してください。

●車体 No _____

※表示場所は P89 参照。

バッテリーと充電器販売のご案内

●リチウムイオンバッテリー D301

注文番号：P6430(ブラック)

●充電器

注文番号：P6431

サービスの実施

点検・修理をはじめ、サービスのご相談など、ご購入いただいたお店にてお受けいたします。

お買い上げいただいた販売店

ブリヂストンサイクル株式会社

〒362-8520 埼玉県上尾市中妻3丁目1-1

お客様相談室

受付時間：9:00～12:00／13:00～17:00

(土・日・祝日及び弊社指定休日は休み)

電話：☎ 0120-72-1911、FAX：048-772-5316
(国際電話・インターネット電話でのご利用はできません。)

IA01-346
7, H